

履修要項

2025年度



TEIKYO

帝京大学 医療技術学部

視能矯正学科

看護学科

診療放射線学科

臨床検査学科

スポーツ医療学科救急救命士コース

帝京大学「建学の精神」 教育理念「自分流」とは

努力をすべての基とし偏見を排し

幅広い知識を身につけ

国際的視野に立って判断ができ

実学を通して創造力および人間味豊かな

専門性ある人材の養成を目的とする

自分流とは、生き方の哲学そのもので、

自分のなすべきこと、興味あることを見つけだし、

自分の生まれ持った個性を最大限生かすべく知識や技術を習得し、それを自分の力として行動する。

そしてその結果については自分自身が責任をもつことである。

本学はこの自分流の生き方を

学生に身につけてもらうべく、サポートしている。

教育指針

実践を通して論理的な思考を身につける「実学」

異文化理解の学習・体験をする「国際性」

必要な知識・技術を偏ることなく幅広く学ぶ「開放性」

帝京大学

(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー)

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

帝京大学は、教育理念とする「自分流」および教育指針とする「実学・国際性・開放性」に基づいた教育を実践し、建学の精神に掲げる人材を育成することを使命および目的としている。本学の定める教育課程を修了し、以下に掲げる能力を身につけた者に対して学位を授与する。

- 1、自律・自立して学修できる (生涯学習力)
- 2、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、効果的に活用できる (情報収集力)
- 3、人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識を有する (幅広い教養)
- 4、口頭・書面によるコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を有する (表現力)
- 5、多文化・異文化に関する知識をもって物事を判断することができる (異文化理解力)
- 6、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することで解決できる (課題発見力)
- 7、協働作業によって新たなものを構築することができる (協働力)
- 8、獲得した資質・能力を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用することで解決することができる (実践力)

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成の方針)

帝京大学は、学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、教育指針とする「実学・国際性・開放性」に基づき、以下の方針で学部学科等のカリキュラムを編成する。また、帝京大学アセスメント・ポリシーに基づき、学修成果の評価を行い、全学的な教育課程や教育方法の改善を図る。

- 1、「教養教育科目」では、幅広い知識と教養、文理複眼的な思考力を身につけるため、4つの分野 (人文科学系分野、社会科学系分野、自然科学系分野、文理融合分野) に区分し、分野ごとに科目を配置する。
- 2、「初年次教育科目」では、高等学校等から大学への円滑な移行を図り、多様な入学者が主体的な学びを実践できるよう、大学での学修の動機付けや学修習慣の形成、学びの基礎となる汎用的技能の獲得を促す科目を配置する。
- 3、「キャリア教育科目」では、生涯学び続ける力や就業力 (企業に雇用されうる能力と自身のキャリア・パスを構想し実行しうる能力) を養成するための科目を配置する。
- 4、「情報教育科目」では、多様な情報を収集・分析し、社会課題を解決する力を身につけるため、デジタル社会で必要となる情報に関する知識と技能を修得する科目と、数理・データサイエンス・AIに関連する科目を配置する。
- 5、「外国語教育科目」では、帝京グローバルコンピテンシーに掲げる能力を身につけるため、語学や異文化理解を学修する科目を配置する。
- 6、「専門科目」では、学部学科等の専門分野についての主体的な学びを促し、知識・技能を身につけるための科目を体系的に配置する。

医療技術学部

(目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー)

教育目的

医療技術学部は、建学の精神に則り、現代医療を担う一員に必要な専門的知識・技能、および教養・倫理を修得し、社会に貢献できるよき人材を育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

医療技術学部は、高い教養と倫理観を有し現代医療を担える専門技能職として社会に貢献できる人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 豊かな人間性・倫理観を有し、コミュニケーションスキルを活用して人間関係が形成できる。
2. 各学科が掲げる基本的医療知識を有し、その医療技術を実践することができる。
3. 医療の高度化と国際化、社会情勢の変化に関心を持ち、生涯学習の自覚を有する。

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成の方針)

学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、医療技術学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 共通教育科目では、教養、初年次、キャリア、情報、外国語の5つの教育科目区分に基づき、豊かな人間性、倫理観、コミュニケーションスキル、国際性ならびに医療人として必要な基礎的知識を修得できる科目を配置する。
2. 専門基礎分野は、各学科の基本的知識・技術を学ぶ上で必要な基礎医学などを身につけることを目的として各分野の医療系基礎科目を配置する。
3. 専門分野は、現代医療を担う一員として必要な専門的知識・技術を学ぶための科目を配置する。

医療技術学部

(目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー)

教育目的

視能矯正学科

視能矯正学科は、医療技術学部の目的に則り、チーム医療の一員として、国民の医療へのニーズの多様化、医療技術の高度化に対応できるより質の高い視能訓練士を育成することを目的とする。

看護学科

看護学科は、医療技術学部の目的に則り、医療の高度化と国際化、変動する社会情勢に対応し、看護の専門性を探求し、理論的、科学的に実践できる人間性溢れる看護職者を育成することを目的とする。

診療放射線学科

診療放射線学科は、医療技術学部の目的に則り、放射線医療に対する技術的な能力を基本として、崇高な倫理観と人間性を身につけ、広く社会に貢献できる診療放射線技師を育成することを目的とする。

臨床検査学科

臨床検査学科は、医療技術学部の目的に則り、臨床検査業務をはじめ衛生、薬事、食品業務などの検査業務を担当できる十分な知識・技術と豊かな人間性を備え、チーム医療の一員として働ける臨床検査技師を育成することを目的とする。

スポーツ医療学科

スポーツ医療学科は、医療技術学部の目的に則り、生命と健康に対して深い理解を示し、基本的な医療関連知識と医療スキルを修得した救急救命士、スポーツ指導者・教育者、トップアスリート、並びに各種分野で幅広く社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

視能矯正学科

視能矯正学科は、眼科に関わる正しい知識と技術を有し、科学的・論理的な思考と豊かな人間性を兼ね備えた視能訓練士の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 医療に関わる倫理学・心理学・医学の基礎的知識を説明できる。
2. 眼科に関わる基本的知識を説明できる。
3. 眼科の検査知識を有し検査技術を実践できる。
4. 視能矯正・視能訓練、およびロービジョンケアの基本的知識を有し、検査技術を実践できる。
5. 新しい社会に貢献できる能力を備えるとともに、チーム医療の一員として主体的に行動できる。

看護学科

看護学科は、医療の高度化と国際化、変動する社会情勢に対応し、看護の専門性を探求し、理論的、科学的に実践できる人間性溢れる看護職者の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 人間を総合的にとらえ、人々の健康と生活の質および倫理に関する知識を概説できる。
2. 看護学に関する知識や技術を概説できる。
3. 科学的根拠に基づいて、ヘルスニーズを総合的に判断し、看護実践ができる。
4. 主体的に多職種との連携・協力・調整に取り組むことができる。
5. 新しい社会に貢献しうるように、自己管理能力を備えると共に自己研鑽することができる。

診療放射線学科

診療放射線学科は、放射線医療に対する技術的な能力を基本として、崇高な倫理観と人間性を身につけ、広く社会に貢献できる診療放射線技師の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 医療人として必要な基礎知識を有し、地域社会、国際社会に貢献する意識を持つ。
2. 放射線に関わる基本的知識を有し、基本的技術を実践できる。
3. 放射線診断の基本的知識を有し、医療技術を実践できる。
4. 放射線治療の基本的知識を有し、医療技術を実践できる。
5. 自己管理能力を備え、チーム医療に繋がる協調性を保ち、将来の役割の変化、技術の進歩に対応できる能力を実践できる。

臨床検査学科

臨床検査学科は、臨床検査業務をはじめ衛生、薬事、食品業務などの検査業務を担当できる十分な知識・技能と豊かな人間性を備えチーム医療の一員として働ける臨床検査技師の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 医療の基礎となる医学・語学・医の倫理・社会学の基本的知識を説明できる。
2. 臨床検査の基礎となる自然科学の基本的知識を説明できる。
3. 臨床検査で行われる生体材料の検査を実践することができ、そのための専門知識や技術を説明できる。
4. 生理機能検査技術を実践する能力を有するとともに、臨床検査で行われる医療工学の知識を説明できる。
5. 臨床検査の知識をもとにチーム医療の現場に適応していくことができるとともに、社会に貢献するための基礎となる知識を有し、将来の進歩や変化に対応することができる。

スポーツ医療学科

スポーツ医療学科は、基本的な医療関連知識と医療スキルを修得した救急救命士、スポーツ指導者・教育者、アスリート、およびスポーツ・健康理解を通じて社会に貢献できる人材の育成を目指している。以下の3つのコースにおいてそれぞれが定めるような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

<救急救命士コース>

病院前救護の現場から救急医療に携わる専門家として、十分な知識と技能、人命救助に対する強い使命感と責任感、豊かな人間性を有し、チーム医療の一員として地域社会に貢献できる救急救命士の育成を目指す。

1. 救急救命士に求められる倫理に関する基礎的知識を有している。
2. 救急救命士として地域社会に貢献する意欲を有している。
3. 病院前救護活動で考慮すべき安全管理の知識や技術を有している。
4. 病院前救護に必要なチームとしての協調性とリーダーシップを有している。
5. 病院前救護に関わる基本的な知識・技術を修得し、その専門性を探究し続ける能力を有している。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

視能矯正学科

学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、視能矯正学科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 共通教育科目では、教養、初年次、キャリア、情報、外国語の5つの教育科目区分に基づき、豊かな人間性、倫理観、コミュニケーションスキル、国際性ならびに医療人として必要な基礎的知識を修得できる科目を配置する。
2. 専門基礎分野では、眼科医療の基礎を学ぶため「視能保健医療学」、「社会医療学」、「基礎医学」、「臨床医学」、「視能解剖学」、「視能病理学」、「視能薬理学」などを、視機能・斜視・眼球運動の基礎を学ぶため「基礎光学」、「視能生理光学」、「視能生理学」、「視覚生理学」、「神経眼科学」などを、低視力者に対する補装具や社会適応の基礎を学ぶため「視能リハビリテーション学」を配置する。
3. 専門分野では、眼科医療を学ぶため「視能障害学」を、視能矯正・視能訓練の理論と技術を修得するため「基礎視能矯正学」、「視能検査学」、「視能訓練学」を配置する。また、自己の将来について考える「ライフデザイン演習Ⅰ～Ⅳ」を、現場において医療人としての自覚、検査の実践、チーム医療の理解を深めるため「総合実習」、「臨床実習」を配置する。

看護学科

学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、看護学科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 共通教育科目では、教養、初年次、キャリア、情報、外国語の5つの教育科目区分に基づき、豊かな人間性、倫理観、コミュニケーションスキル、国際性ならびに医療人として必要な基礎的知識を修得できる科目を配置する。
2. 専門基礎分野では、科学的根拠に基づいて、人々のヘルスニーズを総合的に理解するために、基本的な保健・医療系科目を配置する。
3. 専門分野では、看護の専門性探求や、理論的・科学的な看護実践に不可欠な知識・技術・態度を養成するため、以下の科目を配置する。
 - i) 人々を総合的にとらえ、健康、生活の質、倫理について学修する科目。
 - ii) 看護学の基礎的な知識・技術を学修する科目。
 - iii) 人々のヘルスニーズを総合的に判断し、必要な看護援助を生み出す方法を学修する科目。
 - iv) 多職種との連携・協力・調整について学修する科目。
 - v) 変動する社会に貢献し続けるために自己管理能力を養成し、自己研鑽する方法を学修する科目。

診療放射線学科

学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、診療放射線学科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 共通教育科目では、教養、初年次、キャリア、情報、外国語の5つの教育科目区分に基づき、豊かな人間性、倫理観、コミュニケーションスキル、国際性ならびに医療人として必要な基礎的知識を修得できる科目を配置する。
2. 専門基礎分野では、病院見学・学外施設見学などで放射線技師業務の概要を学ぶため、「医療基礎論」を配置する。また、基本的な放射線医学の知識を学ぶため、「放射線物理学」、「放射化学」などの理工学系科目を配置する。
3. 専門分野では、実学・技術・国際性・社会対応への実学として下記の科目を配置する。
 - i) 実学的な専門知識を身につけるため、「診療画像技術学」、「核医学検査技術学」、「放射線治療技術学」を配置する。
 - ii) 専門的知識・技術を身につけるため、「診療画像機器学」、「医用画像情報学」、「放射線管理学」、「放射線計測学」などを配置する。
 - iii) 医療人としての接遇、チーム医療の理解を深めるため、「画像診断技術学実習（臨床実習）」、「核医学・放射線治療学実習（臨床実習）」を配置する。
 - iv) 日々変化する放射線技術や診療放射線技師の役割についてグローバルな視点で学ぶため、「国際放射線技術学」を配置する。また法律改正に対応し、他の医療分野の知識を身につけ、放射線技術学の向上に資する能力を養うため、「医療安全管理学」、「医療関係論」などの科目を配置する。

臨床検査学科

学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、臨床検査学科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 共通教育科目では、教養、初年次、キャリア、情報、外国語の5つの教育科目区分に基づき、豊かな人間性、倫理観、コミュニケーションスキル、国際性ならびに医療人として必要な基礎的知識を修得できる科目を配置する。
2. 専門基礎分野では、臨床検査の基礎を学ぶため「人体の構造と機能」、「生理学実習」、「病理学」、「生化学」、「医用工学概論」、「公衆衛生学」、「認知症検査学」、「臨床栄養学」などを配置する。
3. 専門分野では、検体検査技術を学ぶため「臨床検査総論」、「病理検査学」、「病理検査学実習」、「血液検査学」、「遺伝子・染色体検査学」、「生化学検査学」、「微生物検査学」、「寄生虫検査学」、「免疫検査学」、「輸血・移植免疫検査学」などを、生理機能検査技術を学ぶため「生理検査学」、「生理検査学実習」、「検査機器学」、チーム医療における実践的能力の修得のため「臨床検査総管理理学」、「医療安全管理学」、「病態解析演習」、「臨地実習」などを配置する。

スポーツ医療学科

学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、スポーツ医療学科は、各コースが定める方針でカリキュラムを編成する。

<救急救命士コース>

1. 共通教育科目では、教養、初年次、キャリア、情報、外国語の5つの教育科目区分に基づき、豊かな人間性、倫理観、コミュニケーションスキル、国際性ならびに医療人として必要な基礎的知識を修得できる科目を配置する。
2. 専門基礎分野では、「解剖学」、「生理学」、「生化学」、「救急医学概論」などの基礎医学並びに救急医学の基礎を段階的に修得する科目を配置する。
3. 専門分野では、「内科系医学」、「救急症候学」などの臨床医学を学ぶための科目を配置するとともに、「救急救命処置各論」、「臨床実習（シミュレーション教育）」、「救急車同乗実習」、「病院実習」などの救急救命処置技術を修得し、チーム医療の重要性を実践的に学ぶための科目を配置する。

目 次

授業関連および学生生活上の規則について

授業および時間割、履修登録	1
出欠席	1
交通機関の不通と警報による休講	2
単位認定	2
G P A制度	3
試験の種類など、追試験と再試験	3
受験上の注意、レポート	4
進級、卒業	5
在学年限、休学、復学、退学、除籍	5
オフィスアワー	5
講義内資料	6
修得目標とカリキュラムマップ	6
科目ナンバー	6
共通教育科目	7
国家試験	7

履修要項

視能矯正学科	視1
看護学科	看1
診療放射線学科	放1
臨床検査学科	臨1
スポーツ医療学科救急救命士コース	救1

授業関連および 学生生活上の規則について

授業および時間割

1. 授業時間は以下のとおりです。

授業時限	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目
時間 90分	9:00~10:30	10:45~12:15	13:05~14:35	14:50~16:20	16:35~18:05

2. 学生は各授業の開始時刻までに必ず教室に入室してください。遅刻者は入室を許可されないばかりでなく、欠席扱いになることがあります。

3. 授業中は私語や携帯電話の使用、飲食等をせず、静粛に受講してください。無断退室や授業を妨げるような行為は厳に慎んでください。講義は大学側で撮影するため、ビデオ、カメラ、タブレット等での撮影・録音はしないでください。違背者には厳正に対処いたします。

4. 授業中に病気等やむを得ない事由で退席をするときは、授業担当教員にその旨を話し、指示を受けてください。

5. 時間割の変更、教室の変更、休講等はその都度掲示によりお知らせします。

履修登録

大学の授業には、全員が受講する必修科目と自由に選択することのできる選択科目があります。各学生がどの科目を受講するかについては大学に申告する必要があります。その申告が履修登録です。履修登録をしないと成績評価は勿論、単位が認定されなくなりますので、全員必ず行ってください。1年間に履修できる単位の上限は、原則として48単位とします。(ただし、自由選択科目、国際事情Ⅰ・Ⅱおよび保健師課程科目は除く)成績優秀者には48単位を超えた履修を認めることがあります。なお、履修登録期間等についてはガイダンスにてお知らせいたします。

出欠席

単位認定は授業時間数が基準になります。従って授業に出席することが大変重要になりますので、必ず出席してください。また、年度初めのガイダンスや実習等に関する各種ガイダンスにも出席してください。

注) 出席の回数、出席すべき授業時間数の3分の2に満たない場合には、当該科目について評価の対象外となり、定期本試験およびこれに準ずる試験の受験資格を失います。実習・演習等、実技を修得することが必要な科目については、基準が引き上げられる場合があります。

1. 講義・実習・演習などへの出欠の調査は、「出席管理システム」のほか、点呼、アンケート、サイン名簿表、レポート、小テスト等によって行います。授業担当者によりその方法は異なります。

2. 大学または教員の都合による休講は、出席すべき授業時間数に含みません。

3. **欠席回数については学生各自の自己管理を原則とします。**

4. 「出席管理システム」では、講義室・実習室の入退室の際に必ず学生証をカードリーダーにかざしてください。学生証をかざし忘れた場合、欠席扱いになることがあります。また、他人に学生証を預けカードリーダーにかざしてもらい、他人の学生証を預かり代わりにカードリーダーにかざす、講義前後だけカードリーダーにかざして実際には出席しない等の場合は不正行為となります。(6. 参照) やむを得ず学生証の携帯を忘れた場合は、事務窓口で所定の手続きを行ってください。

5. 「出席調査用サイン名簿」を使用する場合、あるいは小テスト、レポート等により調査する場合は、原則として以下の取扱いとなりますので注意してください。

(1) 出席調査時に不在の場合は欠席扱いとなります。

(2) サイン名簿を使用する場合、所定欄に記入しない場合は欠席扱いとなります。

(3) 次のような行為は、不正行為となります。(6. 参照)

①他人に自分の小テスト、レポートまたはサイン名簿の記入を依頼した場合

②小テスト、レポートまたはサイン名簿に他人の氏名等を記入した場合

③途中退席者の小テスト、レポートをその者に代わって提出した場合、および依頼した場合

④サイン名簿に記入された他人の氏名を消去した場合

⑤サイン名簿の巡回を妨害した場合

⑥その他、出席に関する不正行為を行った場合

6. **出席に関する不正行為を行った場合は、以下の処分とし、学則に従い懲戒処分を科すこともあります。**

(1) 当該授業を欠席扱いとする

(2) 当該科目の定期試験の受験を認めない(本試験における成績評価は不合格とする)

7. 病気、事故等やむを得ない事情で欠席する場合は、診断書等やむを得ない事由であることを証明できる書類を添付のうえ、事前に所定の欠席届をLMSに提出してください。事前に手続きができない場合は登校可能日か

- ら7日以内にLMSに提出してください。届出が提出されても出席扱いとはしませんが、成績評価の参考資料、学生指導上必要ですので必ず提出してください。欠席届の提出期限は厳守してください。ただし、当該科目の定期試験日まで7日以内の場合は、最終講義日までに科目責任者へ連絡してください。
8. 交通機関の事故等により遅刻となった場合は、大学に到着後速やかに遅刻届を提出してください。遅刻届には証明書が必要ですので、駅で必ず遅延証明書を受け取ってください。ただし、JR埼京線の遅延については、JRより大学へ直接連絡が入りますので、遅延証明書の提出は不要です。
 9. 試験欠席の場合は、別掲の「試験」の規定に従ってください。
 10. 以下にあげる理由による欠席の場合、授業（実習を除く）の欠席回数に算入しません。
 - (1) 学校感染症と診断された、または罹患の疑いがあると認められた場合で、出席停止の基準に該当する場合
 - ①学校感染症については、CAMPUS GUIDEを参照してください。
 - ②所定の欠席届に診断書を添付のうえ、登校可能日から7日以内にLMSに提出してください。
 - (2) 下表に示す忌引に該当する場合
 - ①忌引扱い日数は下表のとおりです。

学生との関係	忌引扱い日数
一親等（父、母、子）、配偶者	7日
二親等（祖父母、兄弟姉妹）	5日
三親等（伯父、叔父、伯母、叔母、曾祖父母）	3日
 - ②忌引扱い日数は、死亡日から起算した、日・祝日を含んだ連続の日数とします。授業を欠席した場合は、所定の忌引届に死亡診断書または戸籍謄本など死亡日がわかる書類を添えて、忌引扱いの終了する日から数えて7日以内にLMSに提出してください。
 - ③葬儀当日が忌引扱い日数に該当しない場合、所定の欠席届に会葬礼状や葬儀施行証明書など葬儀日がわかる書類を添えて葬儀終了後7日以内にLMSに提出してください。葬儀当日の欠席は忌引と同等扱いとし、欠席回数に算入しません。
 - ④忌引による試験欠席については別掲の「試験」の規定に従ってください。
 - (3) 就職試験（最終学年のみ）を受験した場合
 所定の欠席届に受験票や来院証明書など受験したことがわかる書類を添付のうえ、登校可能日から7日以内にLMSに提出してください。

交通機関の不通と警報による休講

交通機関が事故等で不通になった場合や警報が発令された場合の授業・実習の取扱いについては、CAMPUS GUIDEを参照してください。

単位認定

単位は学修時間をもとに決められており、授業の方法および授業の教育効果などを考慮し、1単位は45時間（講義の場合、授業15時間、予習15時間、復習15時間）の学修が基準となっています。

1. 1つの授業科目につき、出席すべき授業時間数の3分の2以上の出席と60点(C評価)以上の成績評価により、所定の単位を認定します。実習等は時間数が3分の2以上に引き上げられる場合があります。
2. 成績評価は、90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、60点未満をDとします。60点未満(D評価)は不合格とし、単位は認定されません。
3. 原則として認定された単位および成績は取り消すことはできません。

在学中に、実用英語検定準1級、TOEFL iBT®72以上、IELTS 5.5以上、TOEIC® Listening & Reading Test 785以上のうちいずれかを取得した場合には、「TOEIC 対策英語」の2単位を本学で修得した単位として認定します。成績評価はすべて90点(S評価)とします。

※いずれの場合も、既に認定された成績評価を変更することができます。該当者は合格証明書等を持参のうえ、事務部教務課窓口に申し出てください。
4. **進級・卒業判定の会議において進級または卒業が認められなかった者については、原級留置きとし、原則として当該年度の授業科目のすべてを未認定とします。**（スポーツ医療学科救急救命士コースを除く）
5. 進級ならびに卒業判定に一切の例外はありません。

GPA制度

GPA(Grade Point Average)制度とは、学修の成果を客観的な数値で評価するものです。この制度は、米欧の大学で採用している成績評価制度に概ね準拠しています。

<GPAの算出方法>

$$4.0 \times S \text{ の修得単位数} + 3.0 \times A \text{ の修得単位数} + 2.0 \times B \text{ の修得単位数} + 1.0 \times C \text{ の修得単位数}$$

総履修登録単位数（「不合格」の単位数を含む）

学生に求められる望ましい成績水準は、GPA2.5以上です。GPA 1.0以下の者は、担当教員等より個別面談、学修指導を行い、学修を継続する意欲がない、継続することが不可能である場合には、退学勧告の対象となります。

試験の種類など

1. 試験には主に次の種類があります。
 - (1) 定期本試験 (2) 中間試験 (3) 授業中に行う試験
2. 定期本試験は原則として、前期または後期定期試験期間中に実施します。定期本試験の時間割・試験場は原則として**試験開始の2週間前**に掲示します。試験時間は原則として以下のとおりです。試験開始10分前には試験場に集合してください。

試験時限	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目	6時限目
時間 60分	9:30~10:30	11:00~12:00	13:00~14:00	14:30~15:30	16:00~17:00	17:30~18:30

3. 中間試験および授業中に行う試験は授業の進捗状況に応じて行うもので、実施については科目担当者の指示によります。
4. 次のいずれかに該当する場合、受験を認めません。(成績評価の対象外となります)
 - (1) 出席回数が、出席すべき授業時間数の**3分の2に満たない科目**。実習・演習等、実技を修得することが必要な科目については、基準が引き上げられる場合があります。
 - (2) 授業料その他必要な学費が**所定の期日までに未納である者**。
5. 遅刻者は原則として受験を認めません。ただし、病気、事故その他やむを得ない事情により、**遅刻が試験開始後20分以内**であれば受験を認めます。その場合も原則として試験時間の延長は認めません。

追試験と再試験

I. 試験欠席と追試験

1. 病気、事故その他やむを得ない事情により定期本試験を受験できない場合は、午前8時45分以降、試験開始時刻までに電話で事務部教務課に連絡するとともに試験欠席届を提出してください。(試験開始時刻を過ぎた場合は可及的速やかに連絡をしてください。本人が連絡できない場合には家族からの連絡でも構いません)届出は、**試験日を含む3日以内**に所定の試験欠席届に欠席事由を証明する書類を添付して事務部教務課へ提出してください。期限までに提出しない場合は、**受験を放棄したものとみなします**。提出期限までに提出できないやむを得ない事由がある場合は申し出てください。また、定期本試験の受験を放棄した場合は、追試験および再試験の受験資格を失います。
2. 欠席事由を証明する書類は、病気・事故の場合は診断書・事故証明書等、忌引の場合は会葬礼状・葬儀施行証明書等です。欠席した場合は、期限内に試験欠席届と一緒に提出してください。
3. 所定の手続きを行い、試験欠席の事由がやむを得ない事情であると認められた者は、追試験を受験することができます。
4. 追試験を受験する者は、指定された期間内に所定の試験願と証明書発行機による追試験料(1科目につき500円)の入金証明書を事務部教務課へ提出しなければなりません。
5. 追試験の最高点は90点です。なお、追試験の再試験は行いません。
6. 中間試験については原則として追試験を行いません。ただし、科目担当者が必要と認めた場合はその限りではありません。

II. 再試験

1. 本試験後の評価が不合格となった者に対しては、再試験を行うことがあります。
2. 再試験を受験する者は、指定された期間内に所定の試験願と証明書発行機による再試験料(1科目につき2,000円)の入金証明書を事務部教務課へ提出しなければなりません。なお、期間内に受験手続きをしなかった者は**受験を放棄したものとみなします。**
3. 再試験の最高点は60点です。なお、再試験の追試験は原則として行いません。
4. 中間試験については原則として再試験を行いません。ただし、科目担当者が必要と認めた場合はその限りではありません。

受験上の注意

I. 受験における注意事項

1. 試験室においては監督者の指示に従ってください。監督者の指示に従わない者には退場を命ずることがあります。
2. 試験室においては座席表に従い着席してください。
3. 学生証は机上の指定された位置に置いてください。当日学生証を携帯していない者は事務部学生課に申し出て仮学生証の発行申請をしてください。**学生証または仮学生証のない者には受験を許可しません。**
4. 筆記用具(鉛筆・消しゴム)以外の参考書、ノート、メモ類、電子機器類等(スマートフォン、タブレット端末、スマートウォッチ、ワイヤレスイヤホンを含むウェアラブル端末等)は、試験開始前にカバンの中にしめてください。また、**電子機器類等は必ず電源を切っておいてください。**帽子を着用している場合は、カバンの中にしめてください。
5. 参考書、ノート類の持ち込みを許可された場合は、試験開始前にすべて指定された場所に置いてください。書き込み、複写物(コピー)等については、事前に科目担当者の指示に従ってください。
6. 試験開始後30分以内の退室は許可しません。また事情によって30分以上たっても許可しないことがあります。なお、退室許可前に退室した場合は受験放棄したものとみなします。ただし、発病や突発事故等やむを得ない場合は監督者の指示に従ってください。
7. 答案は監督者の指示に従って提出し、提出後は速やかに退室してください。

II. 試験における不正行為およびその対処

1. 試験中の次のような行為は不正行為とみなされます。
 - (1) 試験監督者が許可していないものを使用した場合、または机上や机の中に置いたり所持していたりした場合。
 - (2) 受験者同士で私語をした場合、あるいは受験者同士で筆記用具を貸借した場合。
 - (3) 他人の答案を故意に覗いたり、また故意に他人に見せたりした場合。
 - (4) 回収の指示がある試験問題等を試験室外へ持ち出した場合、または内容を記録した場合。
 - (5) その他試験監督者の指示に従わない等、受験態度が不良であった場合。
2. 不正行為を行った者には次のように対処します。
 - (1) 即時受験を停止し、試験室から退室させる。
 - (2) 不正行為を行った場合は、**不正行為を行った科目および当該年度中にすでに終了した試験の成績をすべて無効とすると同時に不正行為を行った時点以降当該年度中のすべての試験(追試験、再試験を含む)について受験停止とする。**さらに学則および学部規程の定めにより、懲戒処分を行う。

レポート

担当教員の指示により、レポートを提出するときは、次の事項に注意してください。

1. レポート用紙のサイズは特に指定が無い場合は、各自判断してください。
2. 指定された期間・方法に従って、提出してください。受付期間前および締め切りに遅れたレポートは一切受け取れません。事務室前のレポートBOXに提出する場合は指定されたBOX番号を十分確認のうえ、投函してください。誤って提出しても取り出しは行いません。
3. 郵送および代理人提出は認められません。必ず本人が指定場所へ提出してください。
4. レポートは、学科、学年、学籍番号、氏名、科目名、担当教員名を記入してください。
5. レポート内容の盗用・剽窃は不正行為であるため、処分を科すことがあります。

進級、卒業

各学科履修要項のページで確認してください。

在学年限

医学部および薬学部は12年、医療技術学部は8年とします。ただし、スポーツ医療学科救急救命士コースを除き、同一学年における在学年限を2年までとします。

休学

1. 休学は事情により認められます。
2. 休学（3か月以上欠席の場合）しようとする者は、所定の休学願とその事由を証明する書類（下記記載）を事務部教務課へ提出し、学長の許可を得なければなりません。休学願の提出期限は12月末日とします。
 - ・疾病、負傷：医師の診断書（大学指定）
 - ・海外留学：受入校の入学許可書
 - ・その他の事由：理由書（大学指定）
3. 休学期間は、休学願が提出された学年末までの1年以内ですが、事情によっては2年以内まで認めることがあります。その場合は改めて関係書類を提出して願い出なくてはなりません。
4. 休学期間は在学期間に算入しません。ただし、12月末日までに休学願を提出した場合に限ります。
5. 休学可能な年数は通算して3年ですが、連続して休学できるのは2年までです。
6. 休学中も指定された学費を納入する必要があります。ただし、前期の休学を希望する者は4月末日までに、後期の休学を希望する者は10月末日までに、本学が定める休学の手続きに従って休学願を提出し許可された場合限り、「施設拡充費」「在籍料」の納入となります。

復学

1. 休学していた者が復学するときは、所定の復学願を2月中旬から2月末日までの間に事務部教務課へ提出し、学長の許可を得なければなりません。病気回復により復学する者は、「復学可能である」という医師の診断書を添付してください。
2. 復学した場合は復学した学年と同額の学費を納入する必要があります。

退学

1. 病気その他やむを得ない事由により退学しようとする者は、所定の退学願を事務部教務課に提出し、学長の承認を得なければなりません。退学願には学生証を添付してください。またロッカーの私物も持ち帰ってください。
2. 他の大学に転学しようとする場合は退学願を事務部教務課へ提出し、学長の承認を得た後、転学の手続きをしてください。
3. 退学を願い出る場合は、退学日までの学費を完納していなければなりません。

除籍・復籍

1. 以下のいずれかに該当する者は除籍となります。（スポーツ医療学科救急救命士コースおよび理工学部データサイエンス学科は（2）は除く）
 - （1）学則に定める在学年限を超えた者（医学部および薬学部12年、医療技術学部および理工学部8年）
 - （2）同一学年の在学年数が2年を超えた者
 - （3）長期にわたり行方不明の者
 - （4）授業料等を正当な事由なく期限内に納入せず、かつ督促を受けても納入しない者
 - （5）出入国管理及び難民認定法に定める「留学」等の中長期在留資格の取得が不許可又は不交付とされた者
2. 上記（4）による除籍後、長期にわたらないうちに事由が解消し、学業継続が可能になった者が復籍を願い出たときは許可されることがあります。復籍を希望する者は、学費を納入すると共に、復籍料30,000円を添えて所定の復籍願を事務部教務課に提出してください。

オフィスアワー

本学には、オフィスアワー制度が設けられています。オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんの授業履修・学業成績あるいは学生生活についての相談を受けながら、コミュニケーションを深め、アドバイスすることによって、より良い大学生活を送ってもらうために設けられた、授業以外の時間のことをいいます。相談時間については、別途掲示などで周知しますが、該当する時間であっても、出張や会議等の理由から教員が不在となる場合があります。

講義内資料

授業中に使用する資料の中には、様々な文献から引用した図表や日常の診療で経験した画像などが含まれます。これらの資料は、学生が勉学に利用することを目的としていますので、自らの勉学以外に不正に使用することや、どこかに置き忘れて学外者にわたるようなことがないように注意してください。

修得目標とカリキュラムマップ

「学科の修得目標」とは、教育課程を通じて学生が卒業するまでに身に付けるべき資質・能力を定めたものです。修得目標レベル1は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）にあたり、レベル2は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をより具体的に設定しています。また、「全学の修得目標」は、建学の精神をもとに、本学の全学生が共通して身に付けるべき資質・能力を定めたものです。これらの修得目標と教育課程との関連を示したものがカリキュラムマップです。（2021年度入学生まではディプロマ・ポリシーと科目の関連を示しています）各学科の履修要項のページに記載があります。

科目ナンバー

シラバスに記載の「科目ナンバー」は、体系的な学修のために、科目を分類したものです。上4桁一下5桁で表します。上4桁、下5桁の分類ルールは以下のとおりです。

【上4桁（1桁目～4桁目）】

1桁目～3桁目（学問分野）	4桁目（水準・難易度）	
学問分野を示すアルファベット3文字。学問分野一覧は、CampusSquareで確認してください。 ※教務／授業関連＞シラバス参照／条件入力 「科目ナンバリングについて」参照	1	学士課程1年レベル
	2	学士課程2年レベル
	3	学士課程3年レベル
	4	学士課程4年レベル
	5	修士・博士前期課程レベル
	6	博士・博士後期課程レベル

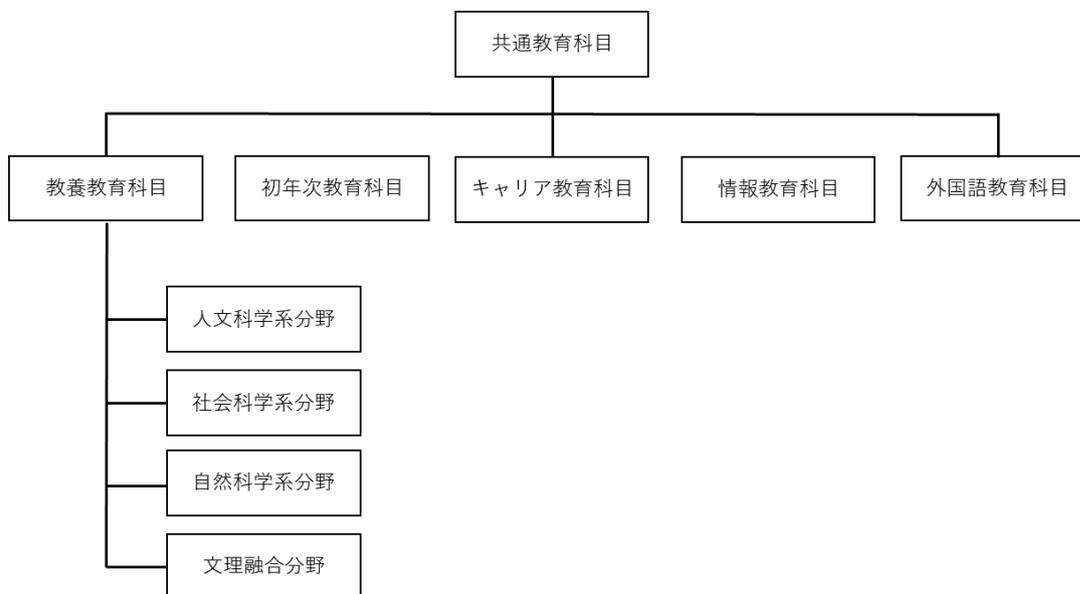
【下5桁（5桁目～9桁目）】

5桁目（学部）・6桁目（学科）	7桁目～9桁目（通し番号）
01 板橋キャンパス共通	6桁目までが同じになる ナンバーごとに通し番号 001～
D1 医学部医学科	
E1 薬学部薬学科	
F5 理工学部データサイエンス学科	
G1 医療技術学部視能矯正学科	
G2 医療技術学部看護学科	
G3 医療技術学部診療放射線学科	
G4 医療技術学部臨床検査学科	
G5 医療技術学部スポーツ医療学科救急救命士コース	

共通教育科目

共通教育科目には、5つの科目区分があり、文系・理系を学修できる「教養教育科目」、学びの基礎となる汎用的スキルを身に付ける「初年次教育科目」、生涯学び続ける力と勤労観を育む「キャリア教育科目」、デジタル社会で必要となる情報収集力を身に付ける「情報教育科目」、語学力と異文化理解力を身に付ける「外国語教育科目」から構成されています（共通教育科目区分は、各学科の授業科目履修一覧表を参照のこと）。

社会状況が急速に変化する現代の社会では、社会における課題が多様化・複雑化する傾向にあります。このような課題に対応するためには、単独あるいは限定された専門分野の知だけでは難しく、文理複眼的な思考力が求められます。そこで、教養教育科目においては、人文科学系分野、社会科学系分野、自然科学系分野、文理融合分野の4つの分野を設けています。各分野を確実に学修して、文理複眼的な視野を修得してください。



国家試験

各々の学科を卒業すると、各々の国家試験の受験資格が取得できます。この国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けることによって、医師、薬剤師、視能訓練士、看護師、保健師、診療放射線技師、臨床検査技師、救急救命士になることができます。詳しくは各施行規則等を確認してください。

卒業する学部学科	取得できる国家試験受験資格	関連法令
医学部	医師	医師法 医師法施行規則
薬学部	薬剤師	薬剤師法 薬剤師法施行規則
医療技術学部 視能矯正学科	視能訓練士	視能訓練士法 視能訓練士法施行規則
医療技術学部 看護学科	看護師 保健師※1	保健師助産師看護師法 保健師助産師看護師法施行規則
医療技術学部 診療放射線学科	診療放射線技師	診療放射線技師法 診療放射線技師法施行規則
医療技術学部 臨床検査学科	臨床検査技師	臨床検査技師等に関する法律 臨床検査技師等に関する法律施行規則 臨床検査技師等に関する法律施行令
医療技術学部 スポーツ医療学科 救急救命士コース	救急救命士※2	救急救命士法 救急救命士法施行規則

※1 保健師国家試験受験資格は、看護学科において、卒業に必要な単位の他、保健師課程の単位を修得した場合に取得できます。

※2 救急救命士国家試験受験資格は、スポーツ医療学科救急救命士コースにおいて、救急救命士国家試験受験資格に必要な科目をすべて修得し、卒業要件単位を満たした場合に取得できます。

視能矯正学科履修要項 〔2025 年度入学生〕

修得目標・カリキュラムマップ	視 2
主な学修内容	視 4
授業科目履修一覧表	視 5
進級および卒業について	視 7

修得目標 視能矯正学科【2025年度入学生】

学科の修得目標		全学の修得目標	4要素
レベル1	レベル2		
A 医療に関わる倫理学・心理学・医学の基礎的知識を説明できる	1 人文科学、社会科学、自然科学にわたる幅広い知識を理解した上で専門知識の学びを進めることができる	人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識を有する	知識・理解
	2 視能訓練士の役割と倫理について説明できる		態度・志向性
	3 人体の構造と機能、全身疾患の基礎的知識を説明できる		知識・理解
	4 小児、高齢者、障害者、外国人の心理的特性を踏まえた対応を説明できる	多文化・異文化に関する知識をもって物事を判断することができる	知識・理解
	5 医療・社会的情報を適切に収集し、自己の適切な行動に活用できる	多様な情報を収集・分析して適正に判断し、効果的に活用できる	汎用的技能
	6 患者の安全管理を確保し、インシデント、アクシデントについて説明できる	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することで解決できる	汎用的技能
B 眼科に関わる基本的知識を説明できる	7 視覚器の構造について説明できる		知識・理解
	8 光学の知識を説明できる		知識・理解
	9 薬学の知識を説明できる		知識・理解
	10 視機能について説明できる		知識・理解
	11 眼疾患（全身疾患と関連するものを含む）について説明できる		知識・理解
C 眼科の検査知識を有し検査技術を実践できる	12 視力・屈折の検査技術を説明できる		知識・理解
	13 視野・色覚・光覚の検査技術を説明できる		知識・理解
	14 電気生理・画像診断の検査技術を説明できる		知識・理解
	15 眼科一般検査の検査技術を説明できる		知識・理解
	16 検査知識を基に検査を実践できる		統合的な学習経験と創造的思考力
D 視能矯正・視能訓練、およびロービジョンケアの基本的知識を有し、検査技術を実践できる	17 弱視・斜視の基本知識を説明できる		知識・理解
	18 眼球運動の知識を説明できる		知識・理解
	19 両眼視機能の知識を説明できる		知識・理解
	20 視能矯正・視能訓練の知識および理論を基に訓練方針を説明できる		知識・理解
	21 視能障害のリハビリテーションを学びロービジョンの程度に合わせた説明や支援ができる		汎用的技能
	22 視能矯正の知識を基に検査を実践できる	獲得した資質・能力を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用することで解決することができる	統合的な学習経験と創造的思考力
E 新しい社会に貢献できる能力を備えるとともに、チーム医療の一員として主体的に行動できる	23 患者、家族等と適切なコミュニケーションをとることができる	口頭・書面によるコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を有する	汎用的技能
	24 医療スタッフ（多職種含む）と適切なコミュニケーションをとることができる	協働作業によって新たなものを構築することができる	態度・志向性
	25 チーム内の議論に加わり、自分の意見を主張できる		態度・志向性
	26 自己の将来について考えるとともに生涯にわたり自己研鑽することができる	自律・自立して学修できる	態度・志向性

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・選択等区分	配当年度	【視能矯正学科2025年度入学生】修得目標 レベル1：A～E/レベル2：1～26																									
				A						B					C					D					E				
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
共通教育科目	医療社会学	必修	1年	○	○																								
	生命科学Ⅰ	必修	1年	○		○																							
	生命科学Ⅱ	必修	1年	○		○																							
	ヒューマンコミュニケーション	必修	1年					○	○																○	○	○	○	
	情報科学	必修	1年	○				○																					
	英語	必修	1年	○			○																					○	
専門科目	基礎医学	必修	1年			○																							
	心身発達学	必修	1年	○			○																				○		
	視能解剖学	必修	1年							○																			
	基礎光学	必修	1年							○	○																		
	臨床医学Ⅰ（内科）	必修	1年			○																							
	視能障害学Ⅰ（入門）	必修	1年																										
	ライフデザイン演習Ⅰ	必修	1年		○			○	○																	○	○	○	
	視能生理学	必修	2年							○			○	○						○									
	視能病理学	必修	2年			○				○																			
	視能生理光学	必修	2年							○	○			○	○														
	視能薬理学	必修	2年								○																		
	視覚生理学	必修	2年								○			○	○	○													
	神経眼科学	必修	2年							○			○	○															
	視能保健医療学	必修	2年		○			○	○																			○	
	視能リハビリテーション学	必修	2年				○				○	○														○			
	視覚光学理論	必修	2年							○	○	○																	
	基礎視能矯正学Ⅰ（両眼視機能・眼球運動）	必修	2年																	○	○	○				○			
	基礎視能矯正学Ⅱ（斜視総論）	必修	2年			○														○	○	○							
	基礎視能矯正学Ⅲ（弱視・視機能）	必修	2年																	○	○	○				○			
	視能障害学Ⅱ（外眼）	必修	2年																										
	視能障害学Ⅲ（内眼）	必修	2年							○			○	○															
	ライフデザイン演習Ⅱ	必修	2年	○				○																				○	
	基礎視能矯正学実習	必修	2年																	○						○			
	臨床医学Ⅱ（内科系）	必修	3年			○																							
	臨床医学Ⅲ（外科系）	必修	3年			○																							
	社会医療学	必修	3年		○				○	○																○	○	○	
	視能検査学Ⅰ（眼科検査Ⅰ）	必修	3年											○	○	○				○	○								
	視能検査学Ⅱ（眼科検査Ⅱ）	必修	3年											○	○	○	○			○	○	○							
	視能検査学Ⅲ（屈折矯正）	必修	3年								○			○	○					○	○	○							
	視能検査学実習	必修	3年																	○						○	○	○	
	視能訓練学Ⅰ（基礎）	必修	3年																		○	○	○						
	視能訓練学Ⅱ（斜視診断・治療）	必修	3年		○															○	○	○	○				○	○	
	視能訓練学Ⅲ（視能矯正）	必修	3年																	○	○	○	○						
ライフデザイン演習Ⅲ	必修	3年	○				○																				○		
視能障害学Ⅳ（眼疾患）	必修	3年																											
ライフデザイン演習Ⅳ	必修	4年	○				○																				○		
視能訓練学特講	必修	4年							○	○	○	○							○	○	○	○							
総合実習	必修	4年		○	○														○						○	○	○		
臨床実習	必修	4年						○											○						○	○	○		

視能矯正

科目区分	科目名	必修・選択等区分	配当年度	【1年共通教育科目2025年度入学生】修得目標 レベル1：A～E/レベル2：1～26																									
				A						B					C					D					E				
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
共通教育科目	医療心理学	選択	1年	○																									
	心ころがるサイコロジ	選択	1年	○																									
	ヘルスケアエデュケーション	選択	1年	○																									
	臨床心理学	選択	1年	○																									
	日本史の転換点を見極める	選択	1年	○																									
	医療経済学	選択	1年	○																									
	医療とボランティア	選択	1年	○																									
	基礎医療法学	選択	1年	○																									
	国際理解の扉を開く （ポストコロナニアル太平洋の探究）	選択	1年	○			○																						
	災害からの復活と公衆衛生	選択	1年	○																									
	社会と医療	選択	1年	○																									
	地域健康管理学入門	選択	1年	○																									
	多文化社会論	選択	1年	○																									
	日本国憲法	選択	1年	○																									
	ヘルス・コミュニケーション	選択	1年	○																									
	罪と罰を科学する	選択	1年	○																									
	健康スポーツ	選択	1年	○																									
	コンタクトレンズの基礎	選択	1年	○																									
	新薬発見のケーススタディー	選択	1年	○																									
	夢の薬物送達システム（DDS）	選択	1年	○																									
	安全と危機管理学	選択	1年	○																									
	科学とはなんだろ	選択	1年	○																									
	薬の現在・過去・未来	選択	1年	○																									
	グラフィック基礎	選択	1年	○																									
	生命と物質のサイエンス	選択	1年	○																									
	リメディカル化学	選択	1年	○																									
	リメディカル生物学	選択	1年	○																									
	リメディカル物理学	選択	1年	○																									
	細胞生物学入門	選択	1年	○																									
	イノベーションをはじめよう	選択	1年	○							○																		
	SDGs概論	選択	1年	○			○			○																			
	価値デザイン入門	選択	1年	○							○																		
	医療界のワーク・ライフ学	選択	1年	○																									
	チーム医療論	選択	1年	○																							○		
	世界に羽ばたく医療人	選択	1年	○			○																				○		
	医療数理学入門	選択	1年	○																									
	医療統計学	選択	1年	○							○																		
	データサイエンス・AI入門	選択	1年	○						○																			
	アカデミック・イングリッシュ	選択	1年	○																									

主な学修内容（2025年度入学生）

1) 1 学年

今までの受動的学習であった意識を能動的学習に換え、大学生としての自覚を高める。基礎分野では、科学的思考力を高め国際化情報化社会への対応を学ぶ。医療従事者としての倫理観を養い、人権と生命の尊厳を理解し、教養を身につけ人間性を高める。このために、「生命科学Ⅰ・Ⅱ」「医療社会学」「ヒューマンコミュニケーション」「情報科学」「英語」が必修であるほか、選択できる授業が用意される。

専門基礎分野・専門分野では、医療従事者に必要な医学・医療の概念と基礎を学ぶ。「基礎医学」「臨床医学Ⅰ」「心身発達学」「視能解剖学」「視能障害学Ⅰ」「基礎光学」では、正常な身体についての総合的把握とともに、疾病と障害のメカニズムに関する臨床医学の重要事項を学び、2学年へ向けて基礎固めを図る。

2) 2 学年

1 学年で履修した内容を土台として、疾病と障害を理解し保健医療福祉と視機能障害のリハビリテーションの知識を身につけるために、「視能保健医療学」「視能障害学Ⅱ・Ⅲ」「視能リハビリテーション学」「神経眼科学」「視能病理学」を学ぶ。また、「視能生理学」「視能生理光学」「視能薬理学」「視覚生理学」「視覚光学理論」「基礎視能矯正学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「基礎視能矯正学実習」では、視機能のメカニズム・光学の理論をふまえ、座学・実習を通して視能矯正の基本的な知識と技術を結びつけて学修を進めていく。

2 学年で学ぶ科目は、基本的に視能訓練士国家試験の出題範囲である。毎回の講義の内容を確実に理解し、身につける習慣が大切である。

3) 3 学年

専門基礎分野では、疾病と障害に対する一層の理解のために「臨床医学Ⅱ・Ⅲ」、視能訓練士法を含む臨床の場の心構えとして「社会医療学」を学ぶ。

専門分野の「視能検査学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「視能障害学Ⅳ」「視能訓練学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「視能検査学実習」は、視能訓練士の技術・理論・実践の中核領域である。これらにより、眼科検査の理解、疾患とのかかわり、視能矯正プランの立案、訓練プログラムの実施、効果判定といった一連の過程を学ぶ。すなわち、知識・手技を深め、医療の現場に対応する観察力・応用力の習得を目指す。

4) 4 学年

視能訓練学特講と学内実習、学外実習から成り立つ。「視能訓練学特講」は、視能訓練士として必要な知識および技能の習得を目指してこれまで教育してきたことを総括して学修する。視能訓練士国家試験合格を目標として準備する。

「総合実習」は学内および病院外等で、「臨床実習」は病院等で、医療人としての常識、チーム医療、眼科一般検査、視能矯正全般を学ぶ。

授業科目履修一覧表 (2025年度入学生)

第1学年

分野	共通教育 科目区分	授業科目名	開講期	単位数	履修方法	
共通 教育 科目	基礎 必修 分野	教養 社会	医療社会学	前期	2	6科目11単位 必修
		教養 自然	生命科学Ⅰ	前期	2	
		教養 自然	生命科学Ⅱ	後期	2	
		初年次 -	ヒューマンコミュニケーション	通年	2	
		情報 -	情報科学	前・後	1	
		外国語 -	英語	通年	2	
	基礎 分野 (選 択)	教養 人文	医療心理学	前期	2	4科目8単位以上 選択
		教養 人文	◆ 心ころがるサイコロジー	前・後	2	
		教養 人文	ヘルスケアエデュケーション	前期	2	
		教養 人文	臨床心理学	後期	2	
		教養 人文	◆ 日本史の転換点を見極める	前・後	2	
		教養 社会	医療経済学	前・後	2	
		教養 社会	医療とボランティア	前期	2	
		教養 社会	基礎医療法学	前期	2	
		教養 社会	◆ 国際理解の扉を開く (ポストコロナル太平洋の探究)	前・後	2	
		教養 社会	災害からの復活と公衆衛生	後期	2	
		教養 社会	社会と医療	前・後	2	
		教養 社会	多文化社会論	前・後	2	
		教養 社会	地域健康管理学入門	前期	2	
		教養 社会	日本国憲法	前・後	2	
		教養 社会	ヘルス・コミュニケーション	前・後	2	
		教養 社会	◆ 罪と罰を科学する	前・後	2	
		教養 自然	健康スポーツ	前・後	1	
		教養 自然	コンタクトレンズの基礎	後期	1	
		教養 自然	新薬発見のケーススタディー	前期	1	
		教養 自然	夢の薬物送達システム (DDS)	後期	1	
		教養 自然	◆ 安全と危機管理学	前・後	2	
		教養 自然	◆ 科学とはなんだろう	前・後	2	
		教養 自然	◆ 薬の現在・過去・未来	前・後	2	
		教養 自然	非開講 グラフィック基礎	後期	2	
		教養 自然	生命と物質のサイエンス	後期	2	
		教養 自然	リメディアル化学	前期	2	
		教養 自然	リメディアル物理学	前期	2	
教養 自然	リメディアル生物学	前期	2			
教養 自然	細胞生物学入門	前期	2			
教養 文理	◆ イノベーションをはじめよう	前・後	2			
教養 文理	SDGs概論	後期	2			
教養 文理	◆ 価値デザイン入門	前・後	2			
キャリア -	医療界のワーク・ライフ学	前期	1			
キャリア -	チーム医療論	前期	1			
キャリア -	世界に羽ばたく医療人	前・後	2			
情報 -	医療数理学入門	前期	2			
情報 -	医療統計学	前期	2			
情報 -	◇ データサイエンス・AI入門	前・後	2			
外国語 -	アカデミック・イングリッシュ	前期	2			
外国語 -	イングリッシュ・コミュニケーション	前・後	2			
外国語 -	TOEIC対策英語	前・後	2			
外国語 -	◆ 中国語入門	前・後	1			
外国語 -	◆ コリア語入門	前・後	1			
専門基 礎分野 (必修)		基礎医学	前期	2	5科目10単位 必修	
		心身発達学	後期	2		
		視能解剖学	前期	2		
		基礎光学	後期	2		
		臨床医学Ⅰ (内科)	後期	2		
専門分野	初年次 -	ライフデザイン演習Ⅰ	通年	2	2科目4単位 必修	
		視能障害学Ⅰ (入門)	後期	2		
第1学年履修単位数合計					33単位	

◆オンライン ◇オンライン (一部対面)

視
能
矯
正

授業科目履修一覧表 (2025年度入学生)

第2学年

分野	共通教育 科目区分		授業科目名	開講期	単位数	履修方法
専門基礎分野			視能生理学	前期	2	9科目18単位 必修
			視能病理学	後期	2	
			視能生理光学	前期	2	
			視能薬理学	後期	2	
			視覚生理学	前期	2	
			神経眼科学	後期	2	
			視能保健医療学	前期	2	
			視能リハビリテーション学	前期	2	
			視覚光学理論	後期	2	
専門分野	キャリア	-	ライフデザイン演習Ⅱ	通年	2	7科目16単位 必修
			基礎視能矯正学Ⅰ (両眼視機能・眼球運動)	後期	2	
			基礎視能矯正学Ⅱ (斜視総論)	後期	2	
			基礎視能矯正学Ⅲ (弱視・視機能)	後期	2	
			基礎視能矯正学実習	通年	4	
			視能障害学Ⅱ (外眼)	前期	2	
			視能障害学Ⅲ (内眼)	前期	2	
第2学年履修単位数合計						34単位

第3学年

分野	共通教育 科目区分		授業科目名	開講期	単位数	履修方法
専門基礎分野			臨床医学Ⅱ (内科系)	前期	2	3科目5単位 必修
			臨床医学Ⅲ (外科系)	後期	2	
			社会医療学	前期	1	
専門分野	キャリア	-	ライフデザイン演習Ⅲ	通年	1	9科目31単位 必修
			視能検査学Ⅰ (眼科検査Ⅰ)	通年	4	
			視能検査学Ⅱ (眼科検査Ⅱ)	通年	4	
			視能検査学Ⅲ (屈折矯正)	通年	4	
			視能検査学実習	通年	4	
			視能障害学Ⅳ (眼疾患)	通年	4	
			視能訓練学Ⅰ (基礎)	前期	2	
			視能訓練学Ⅱ (斜視診断・治療)	通年	4	
		視能訓練学Ⅲ (視能矯正)	通年	4		
第3学年履修単位数合計						36単位

第4学年

分野	共通教育 科目区分		授業科目名	開講期	単位数	履修方法
専門分野	キャリア	-	ライフデザイン演習Ⅳ	通年	1	4科目21単位 必修
			視能訓練学特講	通年	4	
			総合実習	通年	3	
			臨床実習	通年	13	
第4学年履修単位数合計						21単位

卒業に必要な修得単位数合計						124単位
---------------	--	--	--	--	--	-------

進級および卒業について（2025年度入学生）

進 級

1. 進級の判定は、学年末に開かれる会議において行われる。
2. 2 学年への進級要件は、1 年次の基礎分野の必修科目 11 単位および選択科目 8 単位以上、専門基礎分野の必修科目 10 単位、専門分野の必修科目 4 単位、合計 33 単位以上を修得していること。
3. 3 学年への進級要件は、2 年次の専門基礎分野の必修科目 18 単位、専門分野の必修科目 16 単位、合計 34 単位（1 年次、2 年次合計 67 単位以上）を修得していること。
4. 4 学年への進級要件は、3 年次の専門基礎分野の必修科目 5 単位、専門分野の 31 単位、合計 36 単位（1 年次、2 年次、3 年次合計 103 単位以上）を修得していること。

卒 業

1. 4 年以上在学し、卒業に必要な単位を修得することにより、学年末に開かれる教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学士(視能矯正学)の学位が授与される。
2. 卒業要件は、基礎分野の必修科目 11 単位および選択科目 8 単位以上、合計 19 単位以上、専門基礎分野の必修科目 33 単位、専門分野の必修科目 72 単位、総合計 124 単位以上を修得していること。

看護学科履修要項 〔2025 年度入学生〕

修得目標・カリキュラムマップ	看 2
主な学修内容	看 5
授業科目履修一覧表	看 7
進級および卒業について	看 10
実習に関する先修要件および取り決め事項	看 11
保健師国家試験受験資格について	看 11
第一種衛生管理者免許について	看 12
養護教諭二種免許状について	看 13

修得目標 看護学科【2025年度入学生】

学科の修得目標		全学の修得目標	4要素	
レベル1	レベル2			
A	人間を総合的にとらえ、人々の健康と生活の質および倫理に関する知識を概説できる	1 文化的・社会的存在である人間について、自らの考えを述べるができる	人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識を有する	知識・理解
		2 様々なQOLの在り方を知り、人々のQOLに関する自らの考えを述べるができる		知識・理解
		3 倫理的課題の解決方法に基づき、様々な倫理的課題に関する自らの考えを述べるができる		態度・志向性
		4 多様な人々とアサーティブなコミュニケーションをとることができる	口頭・書面によるコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を有する	汎用的技能
		5 自身の考えを文献やデータなどで根拠付けながら、論理的に文章表現することができる		汎用的技能
B	看護学に関する知識や技術を概説できる	6 人間・環境・健康・生活・看護を説明できる（看護学を支える要素を説明できる）		知識・理解
		7 看護の原理・原則について説明できる		知識・理解
C	科学的根拠に基づいて、ヘルスニーズを総合的に判断し、看護実践ができる	8 対象に必要な看護援助を判断するための根拠となる情報を収集・整理できる	多様な情報を収集・分析して適正に判断し、効果的に活用できる	汎用的技能
		9 個人および家族の生活を把握し、健康状態との関連をアセスメントできる	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することで解決できる	汎用的技能
		10 対象の健康と生活の質の向上をめざし、必要な看護援助を提供できる		汎用的技能
D	主体的に多職種との連携・協力・調整に取り組むことができる	11 多職種チームに関係する職種・機関・役割について説明できる		知識・理解
		12 多職種チームにおける看護職の役割を多職種に伝えることができる		汎用的技能
		13 対象の健康状態やニーズを把握し、必要な多職種チームを構築できる	協働作業によって新たなものを構築することができる	態度・志向性
		14 多職種チームで目標を共有し、対象に必要な支援を計画・実施・評価できる		汎用的技能
E	新しい社会に貢献しうるように、自己管理能力を備えたと共に自己研鑽することができる	15 国内外における社会の動向を踏まえ、多様化している人々を対象とした看護のあり方について思考・説明できる	多文化・異文化に関する知識をもって物事を判断することができる	知識・理解
		16 最新の専門的知識・技術を基に、看護専門職として地域社会に貢献できる力を身につける		汎用的技能
		17 自らを律し、管理し、コントロールできる能力（セルフマネジメントスキル）をもち、目的・目標を達成するための行動ができる	獲得した資質・能力を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用することで解決することができる	統合的な学習経験と創造的思考力
		18 情報手段を適切に活用し、実社会の出来事や変化における必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造することができる		汎用的技能
		19 生涯にわたり継続して最新の専門的知識・技術を学び、看護専門職としての能力向上を図るために行動できる	自律・自立して学修できる	態度・志向性

カリキュラムマップ

科目区分	分野	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【看護学科2025年度入学生】修得目標 レベル1：A～E/レベル2：1～19																		
					A					B		C			D				E				
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
共通教育 科目	基礎 分野	医療社会学	必修	1年	○		○			○													
		ヒューマンコミュニケーション	必修	1年				○	○											○			
		労働関係法令Ⅰ	選択	4年	○						○	○											
		労働関係法令Ⅱ	選択	4年	○						○												
		化学	必修	1年	○						○												
	環境 分野	生命科学	必修	1年	○						○												
		情報科学	必修	1年	○						○												
		英語	必修	1年	○			○											○				
		国際事情Ⅰ	自由	1年	○			○											○				
		国際事情Ⅱ	自由	1年	○			○											○				
専門 基礎 分野	ヒトの 構造・ 機能と 疾病	解剖学	必修	1年									○										
		生理学	必修	1年									○										
		生化学	必修	1年									○										
		微生物学	必修	1年									○										
		薬理学	必修	2年									○										
		病理学	必修	1年									○										
		疾病治療論Ⅰ（小児）	必修	2年									○										
		疾病治療論Ⅱ（内科系）	必修	2年									○										
		疾病治療論Ⅲ（外科系）	必修	2年									○										
		疾病治療論Ⅳ（精神医学）	必修	2年									○										
		疾病治療論Ⅴ（産婦人科学）	必修	2年							○	○							○				
		疾病と看護Ⅰ	必修	2年							○												
		疾病と看護Ⅱ	必修	3年							○												
		画像診断学	選択	4年									○										
		リハビリテーション学	選択	4年									○										
	生活者の 健康	ストレス論	必修	1年	○	○			○	○													
		生涯発達心理学	選択	1年	○					○		○											
		公衆衛生学	必修	2年							○		○						○				
		保健医療情報学	必修	3年				○		○										○			
		臨床栄養学	選択	2年							○		○										
	専門 科目	基礎	看護学概論Ⅰ	必修	1年	○	○	○	○	○	○				○				○				
			看護学概論Ⅱ	必修	1年				○	○	○	○											
			看護援助論Ⅰ	必修	1年						○	○		○									
			看護援助論Ⅱ	必修	1年							○			○								
			看護援助論Ⅲ	必修	2年								○		○								
			看護過程論	必修	2年								○	○	○								
		地域	生活の場と看護	必修	1年		○		○	○	○												
			在宅看護概論	必修	2年							○								○			
			在宅看護援助論Ⅰ	必修	2年								○	○		○				○			
			在宅看護援助論Ⅱ	必修	3年								○	○	○	○							
地域看護学概論			必修	2年							○		○	○									
地域看護援助論			必修	3年			○					○	○		○								
公衆衛生看護展開論			選択	3年						○					○	○			○				
保健福祉行政論（基礎）			必修	2年	○	○			○														
公衆衛生看護管理論			選択	4年													○	○		○			
疫学・保健統計学			選択	3年			○	○	○														
学校・産業保健			選択	2年							○												
精神			精神看護学概論	必修	2年	○	○			○	○									○			
		精神看護援助論Ⅰ	必修	2年				○		○	○				○								
		精神看護援助論Ⅱ	必修	3年					○		○	○	○										
		母性看護学概論	必修	2年	○	○	○			○	○			○					○				
		母性看護援助論Ⅰ	必修	2年		○				○	○	○	○	○					○				
		母性看護援助論Ⅱ	必修	3年		○				○	○	○	○	○					○				
小児		小児看護学概論	必修	2年							○												
		小児看護援助論Ⅰ	必修	2年								○											
		小児看護援助論Ⅱ	必修	3年								○	○										
		成人看護学急性期概論	必修	2年	○	○	○			○	○												
成人看護急性期援助論Ⅰ		必修	2年							○	○	○		○									
成人看護急性期援助論Ⅱ		必修	3年								○	○	○										
成人看護学慢性期概論		必修	2年	○						○	○												
成人看護慢性期援助論Ⅰ	必修	2年								○	○												
成人看護慢性期援助論Ⅱ	必修	3年									○	○	○										
高齢者	高齢者看護学概論	必修	2年							○	○												
	高齢者看護援助論Ⅰ	必修	2年								○	○											
	高齢者看護援助論Ⅱ	必修	3年										○	○									

看護

カリキュラムマップ

科目区分	分野	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【看護学科2025年度入学生】修得目標 レベル1：A～E/レベル2：1～19																		
					A					B		C			D				E				
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
専門科目	特論Ⅰ	家族看護論	必修	1年		○					○	○		○									
		がん看護	必修	3年		○																	
		感染看護	選択	4年							○	○	○										
		創傷看護	選択	3年								○	○		○								
		エンドオブライフケア	選択	4年	○		○												○				
	特論Ⅱ	看護管理学	必修	4年														○	○	○	○		
		リーダーシップ論	選択	4年					○						○	○	○			○	○		
		グローバル看護	選択	1年	○			○										○			○		
		看護教育学	選択	4年	○				○									○	○	○	○		
		災害看護	選択	4年								○	○						○				
	特論Ⅲ	ライフデザイン演習Ⅰ	必修	1年			○	○	○	○		○	○			○					○		
		ライフデザイン演習Ⅱ	必修	2年	○		○	○													○		
		ライフデザイン演習Ⅲ	必修	3年	○													○	○	○	○		
		ライフデザイン演習Ⅳ	必修	4年															○	○	○		
		看護研究方法論	必修	3年						○									○		○		
		看護文献検討演習	選択	4年						○								○	○	○	○		
		看護研究計画演習	選択	4年														○			○		
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	必修	1年					○	○	○									○			
		基礎看護学実習Ⅱ	必修	2年		○		○	○		○	○	○							○			
		精神看護学実習	必修	3年							○	○	○	○	○			○	○	○			
		母性看護学実習	必修	3年		○	○	○	○		○	○	○	○				○		○	○		
		小児看護学実習	必修	3年							○	○	○	○					○				
		成人看護学急性期実習	必修	3年				○			○	○	○	○		○							
成人看護学慢性期実習		必修	3年							○	○	○	○						○	○			
高齢者看護学実習		必修	3年						○		○	○	○	○					○				
地域・在宅看護学実習		必修	3年							○	○	○	○										
保健師課程	看護の統合と実践実習	必修	4年				○						○	○	○	○							
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	選択	4年										○	○				○	○				
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	選択	4年										○	○					○	○			
	保健福祉行政論（実践）	選択	4年								○					○	○	○					
	公衆衛生看護学実習	選択	4年										○	○		○	○		○				
産業看護学実習	選択	4年										○			○	○		○					

科目区分	分類	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【1年共通科目2025年度入学生】修得目標 レベル1：A～E/レベル2：1～19																		
					A					B		C			D				E				
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
共通教育 科目	人間	医療心理学	選択	1年	○																		
		心ころがるサイコロジ	選択	1年	○																		
		ヘルスケアエデュケーション	選択	1年	○																		
		臨床心理学	選択	1年	○																		
		日本史の転換点を見極める	選択	1年	○																		
		医療経済学	選択	1年	○																		
		基礎医療法学	選択	1年	○																		
		国際理解の扉を開く （ポストコロナリアル太平洋の探究）	選択	1年	○														○				
		社会と医療	選択	1年	○																		
		多文化社会論	選択	1年	○																		
		日本国憲法	選択	1年	○																		
		ヘルス・コミュニケーション	選択	1年	○																		
		罪と罰を科学する	選択	1年	○																		
		イノベーションをはじめよう	選択	1年	○									○									
	価値デザイン入門	選択	1年	○									○										
	医療界のワーク・ライフ学	選択	1年	○																	○		
	世界に羽ばたく医療人	選択	1年	○															○		○		
	基礎分野	コンタクトレンズの基礎	選択	1年	○																		
		新薬発見のケーススタディー	選択	1年	○																		
		夢の薬物送達システム（DDS）	選択	1年	○																		
		安全と危機管理学	選択	1年	○																		
		科学とはなんだろう	選択	1年	○																		
		薬の現在・過去・未来	選択	1年	○																		
		グラフィック基礎	選択	1年	○																		
		スポーツ	選択	1年	○																		
		生命と物質のサイエンス	選択	1年	○																		
		リメディアル化学	選択	1年	○																		
		リメディアル生物学	選択	1年	○																		
		リメディアル物理学	選択	1年	○																		
		細胞生物学入門	選択	1年	○																		
		医療とボランティア	選択	1年	○																		
	災害からの復活と公衆衛生	選択	1年	○																			
	地域健康管理学入門	選択	1年	○																			
	SDGs概論	選択	1年	○																			
	チーム医療論	選択	1年	○									○					○					
	医療数理学入門	選択	1年	○									○										
	医療統計学	選択	1年	○									○										
データサイエンス・AI入門	選択	1年	○									○											
外国語	アカデミック・イングリッシュ	自由	1年	○			○												○				
	イングリッシュ・コミュニケーション	自由	1年	○			○												○				
	TOEIC対策英語	自由	1年	○			○												○				
	中国語入門	自由	1年	○			○												○				
コリア語入門	自由	1年	○			○												○					

主な学修内容（2025年度入学生）

1) 1学年

看護学科の修得目標（レベル1）A、B、C、Eの基盤となる能力を養う。具体的には、共通教育科目において、看護の対象となる人間や人間を取り巻く環境等について多様な学問分野の視点から学び、人間を総合的にとらえ、洞察できる幅広い教養を身につける。また、「看護学概論Ⅰ」「看護学概論Ⅱ」「看護援助論Ⅰ」「看護援助論Ⅱ」では、看護の基本となる知識・技術・態度を学ぶ。「基礎看護学実習Ⅰ」では、実際の看護活動を見聞きすることで、看護職として必要な態度を理解するとともに、看護を学ぶ自己の課題について考える。初年次教育科目の「ヒューマンコミュニケーション」「ライフデザイン演習Ⅰ」では人間関係構築を目指したコミュニケーションスキルを学び、少人数のグループに分かれて自己理解・他者理解をはじめ、大学生として必須の学修技術や倫理的視点を養う。

尚、「ライフデザイン演習Ⅰ」は、個々の学生が最適な学生生活を送れるように支援することを目的とした「グループアドバイザー制度」の該当科目となっている。グループ担当教員（アドバイザー教員）は、学生個々の相談に応じ、学修、進路等の学生生活に関する事柄について、適切な指導・助言を行う。学生の意見を十分に聞き、必要時、関係諸機関の教職員と連絡を取り合い、調整する役割も担っている。

2) 2学年

看護学科の修得目標（レベル1）A、B、Cに関連する能力を養う。具体的には、看護職に必要な基礎的知識を得るため、「薬理学」「疾病治療論Ⅰ（小児）」「疾病治療論Ⅱ（内科系）」「疾病治療論Ⅲ（外科系）」「疾病治療論Ⅳ（精神医学）」「疾病治療論Ⅴ（産婦人科学）」「疾病と看護Ⅰ」などの専門基礎分野の科目を履修する。また、精神看護学・母性看護学・小児看護学・成人看護学・高齢者看護学・地域看護学に関する専門分野の学修を幅広く行う。授業は講義・演習・見学など多様な形態で、さまざまな発達段階・健康状態や生活の場の異なる対象者の理解と、それらの人々に必要な看護に関する知識・技術を学ぶ。8月から9月にかけて「基礎看護学実習Ⅱ」が生まれ、臨地での看護実践を通して看護職に求められる知識・技能・態度について考える。「ライフデザイン演習Ⅱ」では、看護の対象や現象の解釈、倫理的判断の基盤となる考え方や態度を学修する。

尚、「ライフデザイン演習Ⅱ」は、個々の学生が最適な学生生活を送れるように支援することを目的とした「グループアドバイザー制度」の該当科目となっている。「グループアドバイザー制度」の詳細については、「1学年」の項を参照のこと。

3) 3学年

看護学科の修得目標（レベル1）B、C、D、Eに関連する能力を養う。具体的には、2年次に引き続き、看護の専門科目および「疾病と看護Ⅱ」において、さまざまな発達段階・健康状態や生活の場の異なる対象者に対する看護のあり方を学修し、専門性を探求する。加えて前期には「看護研究方法論」が生まれ、看護の対象を科学的にとらえるための論理的思考を含む研究能力の基盤を養う。後期からは、長期にわたる実習が組まれており、多様な場で看護を体験しながら、科学的根拠に基づいてヘルスニーズを判断し、対象の最適健康をめざして看護実践する能力を修練する。また、実習の場で様々な看護の対象者、医療専門職者等と接しながら、コミュニケーション能力や人間性を磨く。「ライフデザイン演習Ⅲ」では、多様な看護の対象者への理解を深めるとともに、将来のキャリア形成に向けた展望をもつための個人ワークやグループディスカッション等を行う。

尚、「ライフデザイン演習Ⅲ」は、個々の学生が最適な学生生活を送れるように支援することを目的としたグループアドバイザー制度の該当科目となっている。「グループアドバイザー制度」の詳細については、「1 学年」の項を参照のこと。

4) 4 学年

看護学科の修得目標（レベル1）A、B、C、D、Eに関連する能力を養う。具体的には、通年で取り組む「看護文献検討演習」において、学生が関心のあるテーマで多くの文献や情報を収集して分析し、論文としてまとめる力を養う。「看護の統合と実践実習」では、今まで積み上げてきた知識・技能・態度の統合を行い、さらに看護実践能力を高める。後期は「看護管理学」「看護教育学」「感染看護」「エンドオブライフケア」「災害看護」などの看護特論科目が多く生まれ、最新の看護に関する知識はもとより、多職種チーム内での連携・協力・調整力を発揮するために必要となる知識・技能・態度を各々の関心に沿って探求する。「ライフデザイン演習Ⅳ」では、社会人として必要な知識や態度を育成し、キャリアにおけるセルフマネジメントについても考える。

尚、「ライフデザイン演習Ⅳ」は、個々の学生が最適な学生生活を送れるように支援することを目的としたグループアドバイザー制度の該当科目となっている。グループアドバイザー制度の詳細については、「1 学年」の項を参照のこと。

5) 保健師課程

保健師課程は、保健師になるために必要な知識と技術が得られるように構築している。

地域看護学分野の科目で得た知識・技能・態度を基盤として、地域で生活する人びとを支援するためにその健康状態を的確に判断し、個人・家族・集団・地域を単位とした看護方法の選択を適切に行うための公衆衛生看護学に必要な専門的な知識・技能・態度を4年次前期に習得する。その後、地域のヘルスケアシステムの中で、多機関・多職種と連携し、住民と協働して地域の健康問題を解決できる実践力を養うために、「公衆衛生看護学実習」において知識・技能・態度を統合し、個人・家族・集団・地域を対象とした公衆衛生看護を展開する。

保健師課程は、保健師国家試験受験資格を得るための必修となっており、履修するためには「保健師課程の履修条件」（看13～14）を満たしていなければならない。

授業科目履修一覧表(2025年度入学生)

分野	共通教育科目区分		授業科目名	配当年次	開講期	単位数又は時間数			履修方法	
						必修	選択	自由		
共通教育科目	人間科目群	教養 社会	医療社会学	1	後期	2			必修4単位 + 選択4単位以上	
		初年次 -	ヒューマンコミュニケーション	1	通年	2				
		教養 人文	医療心理学	1	前期		2			
		教養 人文	◆ 心ころがるサイコロジー	1	前・後		2			
		教養 人文	ヘルスケアエデュケーション	1	前期		2			
		教養 人文	臨床心理学	1	後期		2			
		教養 人文	◆ 日本史の転換点を見極める	1	前・後		2			
		教養 社会	医療経済学	1	前・後		2			
		教養 社会	基礎医療法学	1	前期		2			
		教養 社会	◆ 国際理解の扉を開く (ポストコロニアル太平洋の探究)	1	前・後		2			
		教養 社会	社会と医療	1	前・後		2			
		教養 社会	多文化社会論	1	前・後		2			
		教養 社会	★ 日本国憲法	1	前・後		2			
		教養 社会	ヘルス・コミュニケーション	1	前・後		2			
		教養 社会	◆ 罪と罰を科学する	1	前・後		2			
		教養 文理	◆ イノベーションをはじめよう	1	前・後		2			
		教養 文理	◆ 価値デザイン入門	1	前・後		2			
		キャリア -	医療界のワーク・ライフ学	1	前期		1			
	キャリア -	世界に羽ばたく医療人	1	前・後		2				
	教養 社会	労働関係法令 I	4	前期		2				
	教養 社会	労働関係法令 II	4	前期		2				
	基礎科目群	環境科目群	教養 自然	化学	1	前期	2			必修6単位 + 選択2単位以上
			教養 自然	生命科学	1	前期	2			
			情報 -	情報科学	1	通年	2			
			教養 自然	コンタクトレンズの基礎	1	後期		1		
			教養 自然	新薬発見のケーススタディー	1	前期		1		
			教養 自然	夢の薬物送達システム (DDS)	1	後期		1		
			教養 自然	◆ 安全と危機管理学	1	前・後		2		
			教養 自然	◆ 科学とはなんだろう	1	前・後		2		
			教養 自然	◆ 薬の現在・過去・未来	1	前・後		2		
			教養 自然	非開講 グラフィック基礎	1	後期		2		
			教養 自然	★ スポーツ	1	前・後		2		
			教養 自然	生命と物質のサイエンス	1	後期		2		
			教養 自然	リメディアル化学	1	前期		2		
			教養 自然	リメディアル物理学	1	前期		2		
			教養 自然	リメディアル生物学	1	前期		2		
教養 自然			細胞生物学入門	1	前期		2			
教養 社会			医療とボランティア	1	前期		2			
教養 社会			災害からの復活と公衆衛生	1	後期		2			
教養 社会	地域健康管理学入門	1	前期		2					
教養 文理	SDGs概論	1	後期		2					
キャリア -	チーム医療論	1	前期		1					
情報 -	医療数理学入門	1	前期		2					
情報 -	医療統計学	1	前期		2					
情報 -	◇ データサイエンス・AI入門	1	前・後		2					
外国語科目群	外国語 -	英語	1	通年	2			必修2単位		
	外国語 -	アカデミック・イングリッシュ	1	前期		2				
	外国語 -	イングリッシュ・コミュニケーション	1	前・後		2				
	外国語 -	TOEIC対策英語	1	前・後		2				
	外国語 -	◆ 中国語入門	1	前・後		1				
	外国語 -	◆ コリア語入門	1	前・後		1				
	外国語 -	国際事情 I	1	集中		2				
外国語 -	国際事情 II	1	集中		2					

★ 保健師課程履修者においては必修科目 ◆ オンライン ◇ オンライン (一部対面)

国際事情 I・国際事情 II について

春期休暇や夏期休暇に実施する2週間～3週間のホリデー留学に参加し、所定の成績を修めた者には、単位が付与されます。留学についてはその都度、掲示などでお知らせします。2週間の場合は2単位、3週間以上の場合は4単位が認定されます。(国際事情 I 2単位、国際事情 II 2単位)

授業科目履修一覧表(2025年度入学生)

分野	共通教育 科目区分	授業科目名	配当 年次	開講期	単位数又は 時間数			履修方法	
					必修	選択	自由		
専門 基礎 分野	ヒトの 構造・ 機能と 疾病	解剖学	1	前期	2			必修20単位 + 選択1単位以上	
		生理学	1	後期	2				
		生化学	1	後期	2				
		微生物学	1	後期	1				
		薬理学	2	前期	2				
		病理学	1	後期	1				
		疾病治療論Ⅰ(小児)	2	後期	1				
		疾病治療論Ⅱ(内科系)	2	前期	2				
		疾病治療論Ⅲ(外科系)	2	後期	1				
		疾病治療論Ⅳ(精神医学)	2	後期	1				
		疾病治療論Ⅴ(産婦人科学)	2	後期	1				
		疾病と看護Ⅰ	2	後期	2				
		疾病と看護Ⅱ	3	前期	2				
		画像診断学	4	後期		1			
		リハビリテーション学	4	後期		1			
生活者の 健康		ストレス論	1	後期	1			必修3単位 + 選択1単位以上	
		生涯発達心理学	1	後期		1			
		公衆衛生学	2	前期	1				
		保健医療情報学	3	前期	1				
		臨床栄養学	2	前期		1			
専門 分野	基礎 看護学	看護学概論Ⅰ	1	前期	2			必修42単位 + 選択2単位以上	
		看護学概論Ⅱ	1	後期	2				
		看護援助論Ⅰ	1	前期	1				
		看護援助論Ⅱ	1	後期	2				
		看護援助論Ⅲ	2	前期	2				
		看護過程論	2	前期	2				
	地域 看護学		生活の場と看護	1	前期	1			
			在宅看護概論	2	前期	1			
			在宅看護援助論Ⅰ	2	後期	1			
			在宅看護援助論Ⅱ	3	前期	1			
			地域看護学概論	2	後期	2			
			地域看護援助論	3	前期	1			
			★公衆衛生看護展開論	3	前期		2		
			保健福祉行政論(基礎)	2	後期	2			
			★公衆衛生看護管理論	4	後期		2		
			★疫学・保健統計学	3	前期		2		
	★学校・産業保健	2	後期		1				
	精神 看護学		精神看護学概論	2	前期	2			
			精神看護援助論Ⅰ	2	後期	1			
			精神看護援助論Ⅱ	3	前期	1			
	母性 看護学		母性看護学概論	2	前期	2			
			母性看護援助論Ⅰ	2	後期	1			
			母性看護援助論Ⅱ	3	前期	1			
	小児 看護学		小児看護学概論	2	前期	2			
			小児看護援助論Ⅰ	2	後期	1			
			小児看護援助論Ⅱ	3	前期	1			
	成人 看護学		成人看護学急性期概論	2	前期	1			
			成人看護急性期援助論Ⅰ	2	後期	1			
			成人看護急性期援助論Ⅱ	3	前期	1			
			成人看護学慢性期概論	2	前期	1			
成人看護慢性期援助論Ⅰ			2	後期	1				
成人看護慢性期援助論Ⅱ			3	前期	1				
高齢者 看護学		高齢者看護学概論	2	前期	2				
		高齢者看護援助論Ⅰ	2	後期	1				
		高齢者看護援助論Ⅱ	3	前期	1				

★保健師課程履修者においては必修科目

授業科目履修一覧表(2025年度入学生)

分野	共通教育 科目区分		授業科目名	配当 年次	開講期	単位数又は 時間数			履修方法
						必修	選択	自由	
専門分野	特論Ⅰ		家族看護論	1	後期	1			必修2単位 + 選択1単位以上
			がん看護	3	前期	1			
			感染看護	4	後期		1		
			創傷看護	3	前期		1		
			エンドオブライフケア	4	後期		1		
	特論Ⅱ		看護管理学	4	後期	1			必修1単位 + 選択2単位以上
			リーダーシップ論	4	後期		1		
			グローバル看護	1	通年		1		
			看護教育学	4	後期		1		
	特論Ⅲ	初年次	-	ライフデザイン演習Ⅰ	1	通年	1		必修7単位 + 選択1単位以上
		キャリア	-	ライフデザイン演習Ⅱ	2	通年	1		
		キャリア	-	ライフデザイン演習Ⅲ	3	通年	1		
		キャリア	-	ライフデザイン演習Ⅳ	4	通年	2		
				看護研究方法論	3	前期	2		
				看護文献検討演習	4	通年		1	
				看護研究計画演習	4	後期		1	
	臨地実習			基礎看護学実習Ⅰ	1	通年	1		必修23単位
				基礎看護学実習Ⅱ	2	通年	2		
				精神看護学実習	3	後期	2		
				母性看護学実習	3	後期	2		
				小児看護学実習	3	後期	2		
				成人看護学急性期実習	3	後期	3		
				成人看護学慢性期実習	3	後期	3		
			高齢者看護学実習	3	後期	3			
			地域・在宅看護学実習	3	後期	2			
			看護の統合と実践実習	4	前期	3			
保健師課程			★ 公衆衛生看護活動論Ⅰ	4	前期		2	保健師課程 選択者 必修11単位	
			★ 公衆衛生看護活動論Ⅱ	4	前期		3		
			★ 保健福祉行政論(実践)	4	前期		1		
			★ 公衆衛生看護学実習	4	前期		4		
			★ 産業看護学実習	4	前期		1		

★ 保健師課程履修者においては必修科目

進級および卒業について(2025年度入学生)

進 級

1. 進級の判定は、学年末に開かれる会議において行われる。
2. 2 学年への進級要件は、下表に示す単位を修得していること。

分野・科目群		必修・選択	単位数
共通教育科目	人間科目群	必修	4 単位
		選択	4 単位以上
	環境科目群	必修	6 単位
		選択	2 単位以上
	外国語科目群	必修	2 単位
専門基礎分野	ヒトの構造・機能と疾病	必修	8 単位
	生活者の健康	必修	1 単位
専門分野	基礎看護学	必修	7 単位
	地域看護学	必修	1 単位
	特 論 I	必修	1 単位
	特 論 III	必修	1 単位
	臨地実習	必修	1 単位
合 計			38 単位以上

3. 3 学年への進級要件は、2 年次の専門基礎分野の必修科目 11 単位、専門分野の必修科目 29 単位、合計 40 単位を修得していること。
4. 4 学年への進級要件は、3 年次の専門基礎分野の必修科目 3 単位、専門分野の必修科目 29 単位、合計 32 単位を修得していること。

卒 業

1. 4 年以上在学し、卒業に必要な単位を修得することにより、学年末に開かれる教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学士(看護学)の学位が授与される。
2. 卒業要件は、基礎分野の必修科目 12 単位および選択科目 6 単位以上、合計 18 単位以上、専門基礎分野の必修科目 23 単位、選択 2 単位以上、合計 25 単位以上、専門分野の必修科目 75 単位および選択科目 6 単位以上、合計 81 単位以上、総合計 124 単位以上を修得していること。

実習に関する先修要件および取り決め事項

実習に関する先修要件

1. 2年次の「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するには、2年次前期までに開講されるすべての必修科目を修得または修得見込みであること。ただし、1年次の「基礎看護学実習Ⅰ」の先修要件はない。
2. 「精神看護学実習」「母性看護学実習」「小児看護学実習」「高齢者看護学実習」「成人看護学急性期実習」「成人看護学慢性期実習」「地域・在宅看護学実習」を履修するには、3年次前期までに開講されるすべての必修科目を修得または修得見込みであること。
3. 「看護の統合と実践実習」を履修するには、3年次後期までに開講されるすべての必修科目を修得または修得見込みであること。

実習に関する取り決め事項

1. 実習に関する先修要件を満たしていない者については、実習の履修は一切認めない。
2. 「基礎看護学実習Ⅱ」については実習の先修要件の科目の途中で実習となるため、先修要件の科目の不合格が確定した場合は、実習が合格であっても実習単位は認めない。
3. 再実習は原則として行わない。
4. 実習の出席時間数が5分の4に満たず欠席事由がやむを得ない場合、所定の手続きを行い、学科教授会で事情が認められた場合は、追実習を行うことができる。

保健師国家試験受験資格について

卒業に必要な単位を満たすとともに、下表に示す科目の単位を修得すると、保健師の国家試験受験資格が得られる。

科目名	単位数	配当年次	備考
公衆衛生看護展開論	2	3年	卒業単位に含まれる
公衆衛生看護管理論	2	4年	卒業単位に含まれる
疫学・保健統計学	2	3年	卒業単位に含まれる
学校・産業保健	1	2年	卒業単位に含まれる
公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	4年	卒業単位に含まれない
公衆衛生看護活動論Ⅱ	3	4年	卒業単位に含まれない
保健福祉行政論（実践）	1	4年	卒業単位に含まれない
公衆衛生看護学実習	4	4年	卒業単位に含まれない
産業看護学実習	1	4年	卒業単位に含まれない
計	18		

保健師課程の履修条件

保健師課程の履修定員は20名であり、3年次に履修者選考を実施する。履修者は以下の①～⑥を総合的に判断して決定する。

- ① 3年次前期までの必修科目の単位を修得または修得見込みであること。
- ② 2年生後期に「学校・産業保健」、3年次前期に「公衆衛生看護展開論」「疫学・保健統計学」の単位を修得または修得見込みであること。
- ③ 「日本国憲法」、「スポーツ」の単位を修得していること。

- ④ 3年前期までの成績及び履修態度(健康で、欠席・遅刻が極めて少ない)、賞罰状況等が良好なこと。
- ⑤ 選考時の試験で所定の評価を得ること。
- ⑥ 卒業後保健師として業務に従事する意志があること。

保健師課程の実習に関する先修要件

「公衆衛生看護学実習」を履修するには、「公衆衛生看護活動論Ⅰ」「公衆衛生看護活動論Ⅱ」の科目を修得または修得見込みであること。

保健師課程の実習に関する取り決め事項

「公衆衛生看護学実習」については、先修要件の科目の途中で実習開始となるため、先修要件の科目の不合格が確定した場合は、実習を中止する。

第一種衛生管理者免許について

下表に示す科目の単位を修得して卒業すると、公益財団法人 安全衛生技術試験協会実施の免許試験免除で、厚生労働省都道府県労働局長から第一種衛生管理者免許を受けることができる。免許申請は、卒業後、各自で最寄りの都道府県労働局等で行う。また、登録にかかる費用は自己負担となる。

科 目 名	単位数	配当年次
公衆衛生看護展開論	2	3年
疫学・保健統計学	2	3年
学校・産業保健	1	2年
地域看護援助論	1	3年
労働関係法令Ⅰ	2	4年
労働関係法令Ⅱ	2	4年
計	10	

厚生労働省ホームページ：労働安全衛生法関係免許申請書等手続きの手引き

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/anzen/index.html

問い合わせ先：最寄りの労働局または労働基準監督署の安全衛生担当部署

養護教諭二種免許状について

下表に示す科目の単位を修得して卒業し、かつ保健師国家資格を取得すると養護教諭二種免許状の申請を行う事ができる。免許申請は、卒業後、各自で都道府県教育委員会等で行う。また、登録にかかる費用は自己負担となる。

科目名	単位数	配当年次
日本国憲法	2	1年
スポーツ	2	1年
英語	2	1年
情報科学	2	1年
計	8	

問い合わせ先：都道府県教育委員会等（東京都は教育庁）

診療放射線学科履修要項

〔2025 年度入学生〕

修得目標・カリキュラムマップ	放 3
主な学修内容	放 5
授業科目履修一覧表	放 7
進級および卒業について	放 11

修得目標 診療放射線学科【2025年度入学生】

学科の修得目標		全学の修得目標	4要素
レベル1	レベル2		
A 医療人として必要な基礎知識を有し、地域社会、国際社会に貢献する意識を持つ	1 人文科学、社会科学、自然科学にわたる幅広い知識を理解した上で専門知識の学びを進めることができる	人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識を有する	知識・理解
	2 医療倫理の基本に沿って学習し説明ができる		態度・志向性
	3 医療従事者としてのプロフェッショナリズムを理解し、社会での放射線技師の役割について説明できる		態度・志向性
	4 医療従事者として必要な保健、福祉制度に対する知識を有している	自律・自立して学修できる	態度・志向性
	5 放射線と地域社会の関わりについて説明できる		態度・志向性
B 放射線に関わる基本的知識を有し、基本的技術を実践できる	6 放射線診療に必要な医学基礎の知識を有し、医療情報とその収集法について説明できる	多様な情報を収集・分析して適正に判断し、効果的に活用できる	汎用的技能
	7 放射線診療に必要な物理、化学、生物の知識を有している		知識・理解
	8 放射線画像の基本特性を理解し、画像構成理論の知識を有している		知識・理解
	9 放射線検査および治療における安全管理について説明できる		知識・理解
	10 放射線の管理に必要な法律の知識を有している		知識・理解
C 放射線診断の基本的知識を有し、医療技術を実践できる	11 診断画像の成り立ちについて説明できる		知識・理解
	12 X線検査およびMRIの撮像方法、画像を論理的に説明できる	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することで解決できる	汎用的技能
	13 造影X線検査の意義、画像を理解し安全管理に関する知識を有している		知識・理解
	14 放射性同位元素の適切な取り扱いができる		汎用的技能
	15 検査時の患者心理に対応した説明ができる		汎用的技能
D 放射線治療の基本的知識を有し、医療技術を実践できる	16 放射線治療に関しての医学的知識を有している		知識・理解
	17 放射線治療に関しての物理、生物学的な知識を有している		知識・理解
	18 放射線治療に関しての技術の基本について説明できる		汎用的技能
	19 治療時の患者の尊厳を尊重した説明ができる		汎用的技能
E 自己管理能力を備え、チーム医療に繋がる協調性を保ち、将来の役割の変化、技術の進歩に対応できる能力を実践できる	20 チーム医療を理解し、メンバーとしての責任を果たせる	協働作業によって新たなものを構築することができる	態度・志向性
	21 患者、他の医療従事者の尊厳を尊重しコミュニケーションを取ることができる	口頭・書面によるコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を有する	汎用的技能
	22 チーム医療において、対人関係の心理的要因に関する知識を活用できる		態度・志向性
	23 グローバルな視点に立って、放射線診療に関する知識を有している	多文化・異文化に関する知識をもって物事を判断することができる	知識・理解
	24 国際社会の一員として学生の視点で社会に貢献できる		態度・志向性
	25 科学的な根拠に基づいた、問題解決の手法を提案できる	獲得した資質・能力を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用することで解決することができる	統合的な学習経験と創造的思考力

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【診療放射線学科2025年度入学生】修得目標 レベル1：A～E/レベル2：1～25																								
				A					B					C					D					E				
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
共通教育 科目	医療社会学	必修	1年	○	○	○	○	○																				
	基礎科学実験	必修	1年	○																						○		
	基礎化学	必修	1年	○																						○		
	基礎物理学	必修	1年	○																						○		
	数学	必修	1年	○																						○		
	ヒューマンコミュニケーション	必修	1年		○	○	○													○	○	○						
	情報科学	必修	1年	○																								
	英語	必修	1年	○																								
	数学基礎	自由	1年	○																						○		
	医学英語	自由	1年	○																						○		
専門科目	基礎医学一般	必修	1年						○	○																		
	医用工学Ⅰ（情報科学）	必修	1年																									
	医療基礎論	必修	1年			○		○	○	○	○																	
	解剖生理学	必修	1年						○	○																		
	放射線生物学Ⅰ	必修	1年																									
	放射化学Ⅰ	必修	1年																									
	放射線物理学Ⅰ	必修	1年																									
	診療画像技術学Ⅰ（基礎）	必修	1年						○	○	○																	
	診療画像技術学Ⅱ（単純撮影法）	必修	1年						○	○	○																	
	診療画像機器学Ⅰ	必修	1年																									
	医用画像情報学Ⅰ（アナログ画像）	必修	1年						○	○	○																	
	ライフデザイン演習Ⅰ	必修	1年		○	○	○	○	○																			
	医療関係論	必修	2年																									
	医学概論	必修	2年						○																			
	病理学	必修	2年						○	○																		
	医用工学Ⅱ（電気工学・電子工学）	必修	2年																									
	医用工学実験	必修	2年																									
	放射線計測学Ⅰ	必修	2年																									
	放射線生物学Ⅱ	必修	2年																									
	放射化学Ⅱ	必修	2年																									
	放射線物理学Ⅱ	必修	2年																									
	放射線計測学Ⅱ	必修	2年																									
	総合放射線技術学基礎演習	必修	2年						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	診療画像技術学Ⅲ（特殊検査法）	必修	2年						○	○	○																	
	診療画像技術学Ⅳ（CT・MRI）	必修	2年																									
	基礎診療画像技術学実習	必修	2年																									
	放射線治療技術学Ⅰ	必修	2年																									
	診療画像機器学Ⅱ	必修	2年																									
	ライフデザイン演習Ⅱ	必修	2年	○	○	○	○	○	○																			
	国際放射線技術学	自由	2～4年			○	○	○																				
	総合放射線技術学応用演習	必修	3年						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	臨床画像解剖学	必修	3年						○																			
	核医学検査技術学	必修	3年																									
	放射線管理学	必修	3年																									
	放射線管理学実験	必修	3年																									
	診療画像技術学実習Ⅰ（特殊検査）	必修	3年																									
	核医学検査機器学	必修	3年																									
	放射線治療技術学Ⅱ	必修	3年																									
	放射線治療機器学	必修	3年																									
	治療線量計測学	必修	3年																									
医用画像情報学Ⅱ（デジタル画像）	必修	3年																										
医用画像情報学実習	必修	3年																										
放射線計測学実験	必修	3年																										
関係法規	必修	3年			○	○	○																					
画像診断技術学実習（臨床実習）	必修	3年																										
医療安全管理学	必修	3年																										
ライフデザイン演習Ⅲ	必修	3年	○	○	○	○	○	○																				
共通教育科目	小論文概論	必修	4年	○																								
専門科目	総合科学実験	必修	4年																									
	基礎医学大要演習（含む、公衆衛生）	必修	4年																									
	放射線生物学演習	必修	4年																									
	放射化学演習	必修	4年																									
	放射線物理学演習	必修	4年																									
	医用工学・画像工学演習	必修	4年																									
	放射線計測学演習	必修	4年																									
	実践臨床画像学	必修	4年			○																						
	ライフデザイン演習Ⅳ	必修	4年	○	○	○	○	○																				
	X線撮影技術学演習	必修	4年																									
	診療画像検査学演習	必修	4年																									
	診療画像機器学演習	必修	4年																									
	核医学検査技術学演習	必修	4年																									
	放射線治療技術学演習	必修	4年																									
	医用画像情報学演習	必修	4年																									
	放射線安全管理学演習	必修	4年																									
	放射線医学総合演習	必修	4年		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	核医学・放射線治療学実習（臨床実習）	必修	4年		○	○	○	○																				
	診療画像技術学実習Ⅱ（医療安全）	必修	4年		○																							
	特別研究	自由	4年		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

診療放射線

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【1年共通科目2025年度入学生】修得目標 レベル1：A～E/レベル2：1～25																								
				A					B					C					D					E				
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
共通教育 科目	医療心理学	選択	1年	○																								
	心ころがるサイコロジ	選択	1年	○																								
	ヘルスクアエドゥケーション	選択	1年	○																								
	臨床心理学	選択	1年	○																								
	日本史の転換点を見極める	選択	1年	○																								
	医療経済学	選択	1年	○																								
	医療とボランティア	選択	1年	○																								
	基礎医療法学	選択	1年	○																								
	国際理解の扉を開く(ポストコロナル太平洋の探究)	選択	1年	○																				○				
	災害からの復活と公衆衛生	選択	1年	○																								
	社会と医療	選択	1年	○																								
	多文化社会論	選択	1年	○																								
	地域健康管理学入門	選択	1年	○																								
	日本国憲法	選択	1年	○																								
	ヘルス・コミュニケーション	選択	1年	○																								
	罪と罰を科学する	選択	1年	○																								
	健康スポーツ	選択	1年	○																								
	コンタクトレンズの基礎	選択	1年	○																								
	新薬発見のケーススタディー	選択	1年	○																								
	夢の薬物送達システム (DDS)	選択	1年	○																								
	安全と危機管理学	選択	1年	○																								
	科学とはなんだろう	選択	1年	○																								
	業の現在・過去・未来	選択	1年	○																								
	グラフィック基礎	選択	1年	○																								
	生命と物質のサイエンス	選択	1年	○																								
	リメディアル化学	選択	1年	○																								
	リメディアル生物学	選択	1年	○																								
	リメディアル物理学	選択	1年	○																								
	細胞生物学入門	選択	1年	○																								
	イノベーションをはじめよう	選択	1年	○																								
	SDGs概論	選択	1年	○																								
	価値デザイン入門	選択	1年	○																								
医療界のワーク・ライフ学	選択	1年	○				○																					
チーム医療論	選択	1年	○			○															○							
世界に羽ばたく医療人	選択	1年	○			○																		○				
医療数理科学入門	選択	1年	○							○																		
医療統計学	選択	1年	○							○																		
データサイエンス・AI入門	選択	1年	○							○																		
アカデミック・イングリッシュ	選択	1年	○																				○		○			
イングリッシュ・コミュニケーション	選択	1年	○																				○		○			
TOEIC対策英語	選択	1年	○																				○		○			
中国語入門	選択	1年	○																				○		○			
コア語入門	選択	1年	○																				○		○			

主な学修内容(2025年度入学生)

1) 1学年

我が国では安心して安全な医療の提供が昨今、国民から求められており、「医療の質の向上」が提言され、質の高い医療スタッフを医療現場に配置することの必要性が謳われています。このため医療技術の高度化にともなう高度先進医療やチーム医療の定着などに対して、より質の高い医療スタッフの養成が求められています。

放射線医療の領域においても医療の高度化、多様化が進むなかで、医療機器や医療技術の進展がなされる一方、医療事故が問題視されていますが、これらに対しても医療に対する技術面は勿論のこと、問題解決能力の育成、また患者に対する医療を志す者としての高い倫理観、ならびに国際的情報化時代への対応など、この領域における高度な学識、素養を身につけた専門家としての高い資質を有した診療放射線技師の養成が必要とされています。

このような社会背景を踏まえ、1年次には基礎分野の「基礎化学」「基礎物理学」「数学」「ヒューマンコミュニケーション」などの科目を通して、理論的思考力や自由で主体的な判断力、また医療従事者に不可欠な医療倫理観と生命の尊厳についての理解を育み、さらに「医療社会学」や「情報科学」などを通して国際化、および情報化社会に対応できる能力を幅広く養うことを目標とします。さらに、選択科目を履修することにより幅広い教養を身に付け、豊かな人間性を育みます。また、「基礎医学一般」「医療基礎論」「解剖生理学」「医用工学Ⅰ」「診療画像技術学Ⅰ・Ⅱ」「医用画像情報学Ⅰ」などの科目では、専門基礎分野・専門分野の学修の第一歩を踏み出すこととなります。

このように1年次に医療従事者を目指す大学生としての自覚、目的意識を持って教養課程を修学することにより、2年次からの修学態勢を整えてください。

2) 2学年

本学年より医療技術の背景となる知識、さらなる技術を修得すべく、専門基礎分野・専門分野の科目を履修します。

専門基礎分野としては、医学一般の知識を修得すべく「医学概論」を履修するとともに、その基礎となる「病理学」、ならびに救命救急医療、看護学、その他、関連医療領域について学ぶ「医療関係論」を履修します。さらに1年次で履修した「放射線生物学」、「放射化学」「放射線物理学」「医用工学」などの理工学的科目を引き続き学修します。実験科目としては「医用工学実験」が設けられています。

専門分野としては、診療放射線技師にとって必要不可欠な科目である「診療画像技術学」「診療画像機器学」、「放射線治療技術学」および「基礎診療画像技術学実習」などの講義、ならびに実習が設けられています。

これら医学、理工学、ならびに医療技術学全般に有用となる専門基礎分野科目として「総合放射線技術学基礎演習」も本学年に設けられています。

本学年は、診療放射線技師として修学すべき主要科目が多数設けられていることを念頭に置き、目的意識をもって講義、実習に臨んでください。

3) 3 学年

本学年は診療放射線技師としての基礎的学問の修得、さらにそれを深めて応用できるように努力する学年です。

専門分野では、臨床医学の導入となる科目を履修します。健康な身体に関する知識を修得し、診療放射線技師が扱う各種撮像手法(モダリティ)から得られる臨床画像の読影方法を養う「臨床画像解剖学」を学びます。

理工学科目としては、実験科目として「放射線計測学実験」が設けられています。

専門分野としては、1 年次、2 年次でも履修した「放射線治療技術学」「医用画像情報学」、実験科目としては「放射線管理学実験」が設けられています。新たに「核医学検査技術学」「核医学検査機器学」「放射線治療機器学」「治療線量計測学」が加わり、実習科目としては、診療放射線技師にとって重要な分野に位置づけられる「診療画像技術学実習」「医用画像情報学実習」を学びます。診療放射線技師として遵守しなければならない法律と安全管理に関する科目として「関係法規」「医療安全管理学」が設けられています。上記の中で、実験・実習科目については診療放射線技師になるための『実学』として、大変重要です。

特に、本学年では座学の重要性もさることながら、放射線診断部門に関する病院での『診療画像技術学としての臨床実習』が用意されていることが 2 年次までにはなかった重要な点です。臨床実習では、学内実習では得られない現場での実践の他、患者への応対、さらにチーム医療に関する理解を深め、医療従事者としての心構えを身に付けることを目標とします。その一方で、各教科の理解や臨床実習での経験が、国家試験のための学修効果をより高めることは明白であり、相乗効果として座学と実学が融合し、放射線技術学全体の理解がより深まることが期待されます。

以上のように、本学年は診療放射線技師としての実学の核になる大切な学年であることを常に念頭において行動するよう心がけてください。

4) 4 学年

本学年は 4 年制大学としての最終学年にあたり、診療放射線技師になるために必要不可欠である技師免許を取得すべく設けられている『診療放射線技師国家試験』が、また診療放射線技師として病院等に勤務するための『就職試験』が待ち受けており重要な年度と位置づけられます。

さらには、診療放射線技師職の集大成ともいえる 3 年次に実施された『診療画像技術学としての臨床実習』に加えて、当学年では『核医学検査・放射線治療学としての臨床実習』が設けられています。

これらのことを視野に入れ、本学年では就職試験時などで有用となる「小論文概論」、専門基礎分野の「基礎医学大要演習」をはじめとする 7 科目、専門分野の「X線撮影技術学演習」をはじめとした 12 科目の計 20 科目が必修となっています。

これらの科目は『国家試験』、『就職試験』の結果を成功に導くために必要となり、また将来における診療活動の礎となります。

2 年次、3 年次と学修してきたことに加えて、当学年でしっかりと研鑽することにより診療放射線技師として、医療従事者としての技術、知識を高めてください。

授業科目履修一覧表 (2025年度入学生)

第1学年

分野	共通教育 科目区分	授業科目名	開講期	単位数	履修方法	
共通教育科目	基礎	教養 社会 医療社会学	後 期	2	8科目15単位 必修	
		教養 自然 基礎科学実験	前 期	1		
		教養 自然 基礎化学	前 期	2		
		教養 自然 基礎物理学	前 期	2		
		教養 自然 数学	前 期	2		
		初年次 情報 - ヒューマンコミュニケーション	通 年	2		
	分野	基礎	外国語 - 英語	通 年	2	2科目4単位以上 選択
			教養 人文 医療心理学	前 期	2	
			教養 人文 ◆ 心ころがるサイコロジ	前・後	2	
			教養 人文 ヘルスケアエデュケーション	前 期	2	
			教養 人文 臨床心理学	後 期	2	
			教養 人文 ◆ 日本史の転換点を見極める	前・後	2	
			教養 社会 医療経済学	前・後	2	
			教養 社会 医療とボランティア	前 期	2	
			教養 社会 基礎医療法学	前 期	2	
			教養 社会 ◆ 国際理解の扉を開く (ポストコロナル太平洋の探究)	前・後	2	
			教養 社会 災害からの復活と公衆衛生	後 期	2	
			教養 社会 社会と医療	前・後	2	
			教養 社会 多文化社会論	前・後	2	
			教養 社会 地域健康管理学入門	前 期	2	
			教養 社会 日本国憲法	前・後	2	
			教養 社会 ヘルス・コミュニケーション	前・後	2	
			教養 社会 ◆ 罪と罰を科学する	前・後	2	
			教養 自然 健康スポーツ	前・後	1	
			教養 自然 コンタクトレンズの基礎	後 期	1	
			教養 自然 新薬発見のケーススタディー	前 期	1	
			教養 自然 夢の薬物送達システム (DDS)	後 期	1	
			教養 自然 ◆ 安全と危機管理学	前・後	2	
			教養 自然 ◆ 科学とはなんだろう	前・後	2	
			教養 自然 ◆ 薬の現在・過去・未来	前・後	2	
			教養 自然 非開講 グラフィック基礎	後 期	2	
			教養 自然 生命と物質のサイエンス	後 期	2	
			教養 自然 リメディアル化学	前 期	2	
			教養 自然 リメディアル物理学	前 期	2	
			教養 自然 リメディアル生物学	前 期	2	
			教養 自然 細胞生物学入門	前 期	2	
	教養 文理 ◆ イノベーションをはじめよう	前・後	2			
	教養 文理 SDGs概論	後 期	2			
	教養 文理 ◆ 価値デザイン入門	前・後	2			
	キャリア - 医療界のワーク・ライフ学	前 期	1			
	キャリア - チーム医療論	前 期	1			
	キャリア - 世界に羽ばたく医療人	前・後	2			
情報 - 医療数理科学入門	前 期	2				
情報 - 医療統計学	前 期	2				
情報 - ◇ データサイエンス・AI入門	前・後	2				
外国語 - アカデミック・イングリッシュ	前 期	2				
外国語 - イングリッシュ・コミュニケーション	前・後	2				
外国語 - TOEIC対策英語	前・後	2				
外国語 - ◆ 中国語入門	前・後	1				
外国語 - ◆ コリア語入門	前・後	1				
教養 自然 数学基礎	前 期	1	自由選択			
外国語 - 医学英語	前 期	1				
専門基礎分野		基礎医学一般	後 期	1	7科目8単位 必修	
		医用工学 I (情報科学)	後 期	1		
		医療基礎論	通 年	1		
		解剖生理学	通 年	2		
		放射線生物学 I	後 期	1		
		放射化学 I	後 期	1		
専門分野	初年次 -	ライフデザイン演習 I	通 年	1	5科目8単位 必修	
		診療画像技術学 I (基礎)	前 期	2		
		診療画像技術学 II (単純撮影法)	後 期	2		
		診療画像機器学 I	後 期	2		
		医用画像情報学 I (アナログ画像)	後 期	1		
第1学年履修単位数合計					35単位	

◆オンライン ◇オンライン (一部対面)

授業科目履修一覧表 (2025年度入学生)

第2学年

分野	共通教育 科目区分	授業科目名	開講期	単位数	履修方法
専門基礎分野		医療関係論	前期	1	11科目18単位 必修
		医学概論	後期	2	
		病理学	後期	1	
		医用工学Ⅱ (電気工学・電子工学)	通年	2	
		医用工学実験	後期	1	
		放射線計測学Ⅰ	前期	2	
		放射線生物学Ⅱ	前期	2	
		放射化学Ⅱ	前期	2	
		放射線物理学Ⅱ	前期	2	
		放射線計測学Ⅱ	後期	2	
		総合放射線技術学基礎演習	後期	1	
専門分野	キャリア	ライフデザイン演習Ⅱ	通年	1	6科目16単位 必修
		診療画像技術学Ⅲ (特殊検査法)	通年	4	
		診療画像技術学Ⅳ (CT・MRI)	通年	4	
		放射線治療技術学Ⅰ	後期	1	
		診療画像機器学Ⅱ	通年	4	
		基礎診療画像技術学実習	通年	2	
	☆ 国際放射線技術学	通年	1	自由選択	
第2学年履修単位数合計					34単位

☆国際放射線技術学は、短期海外研修です。2・3・4年いずれかで履修可能

授業科目履修一覧表 (2025年度入学生)

第3学年

分野	共通教育 科目区分	授業科目名	開講期	単位数	履修方法	
専門基礎 分野		総合放射線技術学応用演習	後 期	1	1科目1単位 必修	
専 門 分 野	キャリア	-	ライフデザイン演習Ⅲ	通 年	1	16科目30単位 必修
			臨床画像解剖学	前 期	2	
			核医学検査技術学	通 年	2	
			放射線管理学	前 期	1	
			放射線管理学実験	後 期	1	
			診療画像技術学実習Ⅰ (特殊検査)	前 期	1	
			核医学検査機器学	後 期	2	
			放射線治療技術学Ⅱ	前 期	2	
			放射線治療機器学	通 年	2	
			治療線量計測学	通 年	2	
			医用画像情報学Ⅱ (デジタル画像)	前 期	2	
			医用画像情報学実習	通 年	2	
			放射線計測学実験	前 期	1	
			関係法規	後 期	1	
			画像診断技術学実習 (臨床実習)	後 期	6	
		医療安全管理学	前 期	2		
		☆ 国際放射線技術学	通 年	1	自由選択	
第3学年履修単位数合計					31単位	

☆国際放射線技術学は、短期海外研修です。2・3・4年いずれかで履修可能

授業科目履修一覧表 (2025年度入学生)

第4学年

分野		共通教育 科目区分		授業科目名	開講期	単位数	履修方法
共通 教育 科目	基礎 分野	教養	人文				
				小論文概論	前 期	1	1科目 1単位 必修
専 門 基 礎 分 野				総合科学実験	前 期	1	7科目7単位 必修
				基礎医学大要演習 (含む、公衆衛生)	通 年	1	
				放射線生物学演習	通 年	1	
				放射化学演習	通 年	1	
				放射線物理学演習	通 年	1	
				医用工学・画像工学演習	通 年	1	
				放射線計測学演習	通 年	1	
専 門 分 野		キャリア	-	ライフデザイン演習Ⅳ	通 年	1	12科目16単位 必修
				実践臨床画像学	通 年	2	
				X線撮影技術学演習	通 年	1	
				診療画像検査学演習	通 年	1	
				診療画像機器学演習	通 年	1	
				核医学検査技術学演習	通 年	1	
				放射線治療技術学演習	通 年	1	
				医用画像情報学演習	通 年	1	
				放射線安全管理学演習	通 年	1	
				放射線医学総合演習	前 期	1	
				核医学・放射線治療学実習 (臨床実習)	前 期	4	
				診療画像技術学実習Ⅱ (医療安全)	前 期	1	
				特別研究	通 年	4	自由選択
			※ 国際放射線技術学	通 年	1		
第4学年履修単位数合計							24単位

☆国際放射線技術学は、短期海外研修です。2・3・4年いずれかで履修可能

卒業に必要な修得単位数	124単位
-------------	-------

進級および卒業について(2025年度入学生)

進 級

1. 進級の判定は、学年末に開かれる会議において行われる。
2. 2 学年への進級要件は、1 年次の基礎分野の必修科目 15 単位、選択科目 4 単位以上、専門基礎分野の必修科目 8 単位、専門分野の必修科目 8 単位、合計 35 単位以上を修得していること。
3. 3 学年への進級要件は、2 年次の専門基礎分野の必修科目 18 単位、専門分野の必修科目 16 単位、合計 34 単位以上（1 年次、2 年次合計 69 単位以上）を修得していること。
4. 4 学年への進級要件は、3 年次の専門基礎分野の必修科目 1 単位、専門分野の必修科目 30 単位、合計 31 単位以上（1 年次、2 年次、3 年次までの合計 100 単位以上）を修得していること。

卒 業

1. 4 年以上在学し、卒業に必要な単位を修得することにより、学年末に開かれる教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学士(医療技術学)の学位が授与される。
2. 卒業要件は、基礎分野の必修科目 16 単位および選択科目 4 単位以上、合計 20 単位以上、専門基礎分野の必修科目 34 単位、専門分野の必修科目 70 単位、総合計 124 単位以上を修得していること。

臨床検査学科履修要項

〔2025 年度入学生〕

修得目標・カリキュラムマップ	臨 2
主な学修内容	臨 5
授業科目履修一覧表	臨 7
進級および卒業について	臨 11
臨地実習の履修条件	臨 11

修得目標 臨床検査学科【2025年度入学生】

		学科の修得目標		全学の修得目標	4要素
レベル1		レベル2			
A	医療の基礎となる医学・語学・医の倫理・社会学の基本的知識を説明できる	1	医療人としての倫理的問題を認識し、倫理的原則に基づいての意見が主張できる	自律・自立して学修できる	態度・志向性
		2	社会的、環境的要因や生活習慣と疾病の関係に関する知識を有している		知識・理解
		3	語学を活用した情報収集ができ、その情報を説明できる	多様な情報を収集・分析して適正に判断し、効果的に活用できる	汎用的技能
		4	多文化・異文化を踏まえて共感、支援的態度を示す論議ができる	多文化・異文化に関する知識をもって物事を判断することができる	知識・理解
B	臨床検査の基礎となる自然科学の基本的知識を説明できる	5	人文科学、社会科学、自然科学にわたる幅広い知識を理解した上で専門知識の学びを進める	人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識を有する	知識・理解
		6	環境の健康への影響を科学的に説明できる		知識・理解
		7	重要な病原微生物についての知識を有している		知識・理解
		8	臨床検査で用いる化学物質とその安全な取り扱いについての知識を有している		知識・理解
C	臨床検査で行われる生体材料の検査を実践することができ、そのための専門知識や技術を説明できる	9	適切な検体の採取、取り扱い、標本の作成ができる		知識・理解
		10	臨床検査で行われる代表的な検体検査ができる		知識・理解
		11	臨床検査に必要な病原微生物の取り扱いができる		知識・理解
		12	検体検査で必要となる機器、器具を取り扱うことができる		知識・理解
D	生理機能検査技術を実践する能力を有するとともに、臨床検査で行われる医療工学の知識を説明できる	13	生理機能検査に必要な生理学の知識を有している		知識・理解
		14	臨床検査に必要な医用工学に関する知識を有している		知識・理解
		15	代表的な疾患と診断に必要な生理機能検査および生理機能検査所見との関連性を説明できる		知識・理解
		16	生理機能検査で必要となる機器、器具を取り扱うことができる		知識・理解
E	臨床検査の知識をもとにチーム医療の現場に適応していくことができるとともに、社会に貢献するための基礎となる知識を有し、将来の進歩や変化に対応することができる	17	チーム医療でチームメンバーとして自分の意見を主張できる	協働作業によって新たなものを構築することができる	態度・志向性
		18	良好な人間関係を築くため、コミュニケーション・スキルを活用できる	口頭・書面によるコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を有する	汎用的技能
		19	臨床検査医学および臨床検査技術の発展の基礎となる科学的問題を説明することができ、改善に向けての論議ができる	獲得した資質・能力を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用することで解決することができる	統合的な学習経験と創造的思考力
		20	科学的な根拠を基盤として環境衛生の保全、食品の衛生管理について説明できる	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することで解決できる	汎用的技能

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【臨床検査学科2025年度入学生】修得目標 レベル1：A～E/レベル2：1～20																			
				A			B				C					D				E			
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
共通教育 科目	医療社会学	必修	1年	○	○		○	○															
	化学Ⅰ	必修	1年					○															
	化学Ⅱ	必修	1年					○															
	生命科学Ⅰ	必修	1年					○															
	生命科学Ⅱ	必修	1年					○															
	化学実験	必修	1年					○															
	生命科学実験	必修	1年					○															
	ヒューマンコミュニケーション	必修	1年	○		○												○	○		○		
	医療基礎論	必修	1年	○				○															
	医学概論	必修	1年	○				○															
情報科学	必修	1年		○	○	○	○																
英語	必修	1年			○	○	○													○			
専門科目	人体の構造と機能	必修	1年					○	○								○						
	ライフデザイン演習Ⅰ	必修	1年	○	○		○	○											○	○	○	○	
	生理検査学Ⅰ	必修	1年				○	○	○						○	○	○	○					
	微生物検査学総論	必修	1年				○	○	○	○			○	○	○	○					○	○	
	検査機器学	必修	1年				○	○						○			○						
共通教育科目	医学英語	必修	2年			○	○	○												○			
専門科目	生理学実習	必修	2年			○									○	○	○	○			○		
	病理検査学Ⅰ	必修	2年			○		○	○	○	○	○	○	○									
	病理検査学実習Ⅰ	必修	2年	○			○	○	○	○	○	○	○	○							○		
	病理学	必修	2年			○		○	○	○	○	○	○	○									
	生化学	必修	2年			○		○	○												○		
	生化学実習	必修	2年			○		○	○														
	ライフデザイン演習Ⅱ	必修	2年	○	○		○	○											○	○	○		
	解剖・病理学実習	必修	2年	○		○		○	○	○	○	○	○	○							○		
	臨床検査総論（実習含む）	必修	2年	○		○		○	○				○	○	○						○		
	血液検査学Ⅰ	必修	2年			○		○	○				○	○							○		
	生化学検査学Ⅰ	必修	2年			○		○	○												○		
	微生物検査学Ⅰ	必修	2年			○		○	○	○			○	○	○	○					○		
	微生物学実習	必修	2年			○		○	○	○			○	○	○	○					○		
	免疫検査学	必修	2年			○		○	○				○	○	○	○					○		
	免疫検査学実習	必修	2年			○		○	○				○	○	○	○					○		
輸血・移植免疫検査学Ⅰ	必修	2年			○		○	○				○	○	○						○			
生理検査学Ⅱ	必修	2年			○		○	○					○	○	○	○				○			
薬理学	必修	2年			○		○	○		○													
共通教育科目	小論文概論	自由	3年	○	○		○	○													○		
専門科目	公衆衛生学	必修	3年	○	○																○		
	医用工学概論	必修	3年														○				○		
	医用工学概論実習	必修	3年													○					○		
	認知症検査学	必修	3年	○	○	○	○								○	○	○	○	○	○	○		
	臨床栄養学	必修	3年					○	○	○											○		
	ライフデザイン演習Ⅲ	必修	3年	○	○		○	○											○	○	○		
	臨床病態学	必修	3年			○		○	○	○	○										○		
	寄生虫検査学（実習含む）	必修	3年			○		○				○	○	○							○		
	血液検査学Ⅱ	必修	3年			○		○	○				○	○	○						○		
	血液検査学実習	必修	3年			○		○				○	○	○							○		
	病理検査学Ⅱ	必修	3年			○		○	○	○	○	○	○	○							○		
	病理検査学実習Ⅱ	必修	3年	○			○	○	○	○	○	○	○	○							○		
	遺伝子・染色体検査学（実習含む）	必修	3年			○		○				○	○	○							○		
	生化学検査学Ⅱ（放射線科学含む）	必修	3年			○		○	○												○		
	生化学検査学実習	必修	3年			○		○	○												○		
	輸血・移植免疫検査学Ⅱ	必修	3年			○		○	○				○	○	○						○		
	輸血・移植免疫検査学実習	必修	3年	○	○			○	○														
	生理検査学Ⅲ（画像検査学含む）	必修	3年			○		○	○						○	○	○	○					
	生理検査学Ⅳ	必修	3年			○		○	○						○	○	○	○					
	生理検査学実習	必修	3年			○		○	○						○	○	○	○					
	臨床検査総合管理論	必修	3年			○						○			○						○		
	関係法規・保健医療福祉概論	必修	3年	○																			
	臨床検査特論Ⅰ	必修	3年	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	微生物検査学Ⅱ	必修	3年			○		○	○	○			○	○	○	○					○		
	微生物検査学実習	必修	3年			○		○	○	○			○	○	○	○					○		
	医療安全管理学（実習含む）	必修	3年					○	○												○		
	健康食品学	自由	3年					○	○	○	○										○		
	ライフデザイン演習Ⅳ	必修	4年	○	○		○	○												○	○		
	病態解析演習	必修	4年					○	○	○	○										○		
	臨地実習	必修	4年	○	○																		
臨床検査特論Ⅱ	必修	4年					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
細胞検査士特論	自由	4年					○					○								○			
特別研究	自由	4年					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			

臨床検査

カリキュラムマップ

科目区分	科目名	必修・ 選択等 区分	配当 年次	【1年共通科目2025年度入学生】修得目標 レベル1：A～E/レベル2：1～20																			
				A				B				C				D				E			
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
共通教育 科目	医療心理学	選択	1年					○															
	心ころがるサイコロシー	選択	1年					○															
	ヘルスケアエデュケーション	選択	1年					○															
	臨床心理学	選択	1年					○															
	日本史の転換点を見極める	選択	1年					○															
	医療経済学	選択	1年					○															
	医療とボランティア	選択	1年					○															
	基礎医療法学	選択	1年					○															
	国際理解の扉を開く (ポストコロナル太平洋の探究)	選択	1年				○	○															
	災害からの復活と公衆衛生	選択	1年					○															
	社会と医療	選択	1年					○															
	多文化社会論	選択	1年					○															
	地域健康管理学入門	選択	1年					○															
	日本国憲法	選択	1年					○															
	ヘルス・コミュニケーション	選択	1年					○															
	罪と罰を科学する	選択	1年					○															
	健康スポーツ	選択	1年					○															
	コンタクトレンズの基礎	選択	1年					○															
	新薬発見のケーススタディー	選択	1年					○															
	夢の薬物送達システム (DDS)	選択	1年					○															
	安全と危機管理学	選択	1年					○															
	科学とはなんだろう	選択	1年					○															
	薬の現在・過去・未来	選択	1年					○															
	グラフィック基礎	選択	1年					○															
	生命と物質のサイエンス	選択	1年					○															
	リメディアル化学	選択	1年					○															
	リメディアル生物学	選択	1年					○															
	リメディアル物理学	選択	1年					○															
	細胞生物学入門	選択	1年					○															
	イノベーションをはじめよう	選択	1年					○													○		
	SDGs概論	選択	1年				○	○													○		
	価値デザイン入門	選択	1年					○													○		
医療界のワーク・ライフ学	選択	1年		○			○																
チーム医療論	選択	1年		○			○																
世界に羽ばたく医療人	選択	1年		○			○											○					
医療数理学入門	選択	1年				○		○															
医療統計学	選択	1年				○		○															
データサイエンス・AI入門	選択	1年				○		○															
アカデミック・イングリッシュ	選択	1年					○	○												○			
イングリッシュ・コミュニケーション	選択	1年					○	○												○			
TOEIC対策英語	選択	1年					○	○												○			
中国語入門	選択	1年					○	○												○			
ロシア語入門	選択	1年					○	○												○			

主な学修内容(2025 年度入学生)

1) 1 学年

化学、生命科学、情報科学、英語などの基礎教養分野の必修科目(実験を含む)とともに、さまざまな分野から科目を選択して履修し、幅広い見識を高めることを目標とする。また必修科目である「医療基礎論」と「医学概論」は、両科目とも、将来医療人として必要な基礎知識や心構えを教育することに重点が置かれている。両科目に重複する内容項目も少なくないが、同じ内容項目であっても、講義する教員によって物の見方や考え方が異なるものであるということを実感し、大学における専門教育とは、高校時代までの学習とは違って、必ずしも答えは一つとは限らないことを、この機会に銘記しておいて貰いたい。教員ごとの講義内容の相違点や類似点を把握して、自分の力で主体的に捉え直す訓練が大切である。必修科目である「人体の構造と機能」では、人体を構成する器管、組織、細胞の正常の形態と機能について、「微生物検査学総論」では、病原微生物や各種感染症について、「生理検査学Ⅰ」では、臨床検査に必要な体のしくみと機能について、「検査機器学」では臨床検査に使用する検査機器について学ぶ。これらを学ぶことは2年次の専門基礎科目、専門科目を理解する上で重要である。2年次の専門科目に興味をもって取り組むうえで必要となる土台を築くのが1年次の学習のポイントとなる。また、「ライフデザイン演習」では全学年を通して臨床検査技師の職務や医療倫理を学び、定期的に学習目標の設定や振り返りを行うことで、在学中・卒後のキャリアアップのための基盤形成を目指す。

2) 2 学年

「病理検査学Ⅰ」、「生化学」、「病理学」などの専門基礎分野と臨床検査学の第一段階として「臨床検査総論」、「血液検査学Ⅰ」、「生化学検査学Ⅰ」、「微生物検査学Ⅰ」、「免疫検査学」、「輸血・移植免疫検査学Ⅰ」、「生理検査学Ⅱ」、などの専門分野の必修科目(実習を含む)を履修する。まず正常なヒトの臓器別の形態と機能を十分に理解し記憶するとともに、これら臓器の連携した働きの上に生命の営みが成り立っていることを理解する。また、「生化学」、「病理学」といった従来の基礎医学的内容をしっかりと学ぶことにより、「生化学検査学Ⅰ」、「微生物検査学Ⅰ」、「免疫検査学」などの専門分野にも入りやすくなる。そしてさらに、臨床に即した検査学的内容へと進んでいく上で必要となる土台を築くのが2学年の学習のポイントとなる。とくに前期において自らの到達度をよく認識し、疑問点を早期に解決しながら、後期のより発展的内容と実習に対応できるように準備していく。実習では、講義で学んだ知識を整理し、実践的な手技を身に付ける。このほか、「医学英語」では臨床検査技師として必要とされる英語力の基礎を学ぶ。

3) 3 学年

2 年次に履修した専門基礎分野をさらに発展させて、「臨床病態学」、「寄生虫検査学」、「血液検査学Ⅱ」、「病理検査学Ⅱ」、「遺伝子・染色体検査学」、「生化学検査学Ⅱ」、「輸血・移植免疫検査学Ⅱ」、「生理検査学Ⅲ」、「臨床検査総合管理学」など、実地臨床に求められる専門分野の必修科目（実習を含む）を履修する。また、「臨床検査特論Ⅰ」ではこれまで学んだ国家試験科目の復習を行い、年度末の総合試験を経て国家試験に向けた対策の端緒とする。3 学年では基礎医学をゆっくりと修得する時期であるという意識ではなく、より実践的な臨床検査学的事項を、将来の専門性を意識して学ぶ気持ちが大事である。3 学年までに各人が修得した知識・技能が臨床検査学の理解度を決定する。1、2 学年の学習状況の良否が各自のその後の学習効果に大きく影響することになるので、より高度な臨床的内容を理解する能力を身につけるよう心がけるべきである。

4) 4 学年

3 年生までに履修した科目の総仕上げの時期であり、グループごとに分かれて実習病院で臨地実習を行う。臨地実習においては臨床検査の現場で必要となる知識・技能だけでなく、医療従事者に求められる社会性・倫理性、さらに自己管理能力を身につけることも大切である。「臨床検査特論Ⅱ」では国家試験に向けての準備を行う。また余裕のある学生のために細胞検査士特論コース（ただし本学の細胞検査士特論コースを履修しても、日本臨床細胞学会による細胞検査士資格認定試験の受験資格を卒業と同時に得られるものではない）と特別研究コースの自由選択科目も設ける。

授業科目履修一覧表 (2025年度入学生)

第1学年

分野	共通教育科目区分	授業科目名	開講期	単位数	履修方法		
共通教育科目	基礎	教養 社会	医療社会学	後期	2	12科目19単位必修	
		教養 自然	化学Ⅰ	前期	2		
		教養 自然	化学Ⅱ	後期	2		
		教養 自然	生命科学Ⅰ	前期	2		
		教養 自然	生命科学Ⅱ	後期	2		
		教養 自然	化学実験	前期	1		
		教養 自然	生命科学実験	後期	1		
		初年次 -	ヒューマンコミュニケーション	通年	2		
		キャリア -	医療基礎論	後期	1		
		キャリア -	医学概論	前期	1		
		情報 -	情報科学	前期	1		
		外国語 -	英語	通年	2		
		教養 人文	医療心理学	前期	2		2科目4単位以上選択
		教養 人文	◆ 心ころがるサイコロジー	前・後	2		
		教養 人文	ヘルスケアエデュケーション	前期	2		
		教養 人文	臨床心理学	後期	2		
		教養 人文	◆ 日本史の転換点を見極める	前・後	2		
		教養 社会	医療経済学	前・後	2		
		教養 社会	医療とボランティア	前期	2		
		教養 社会	基礎医療法学	前期	2		
		教養 社会	◆ 国際理解の扉を開く (ポストコロナル太平洋の探究)	前・後	2		
	教養 社会	災害からの復活と公衆衛生	後期	2			
	教養 社会	社会と医療	前・後	2			
	教養 社会	多文化社会論	前・後	2			
	教養 社会	地域健康管理学入門	前期	2			
	教養 社会	日本国憲法	前・後	2			
	教養 社会	ヘルス・コミュニケーション	前・後	2			
	教養 社会	◆ 罪と罰を科学する	前・後	2			
	教養 自然	健康スポーツ	前・後	1			
	教養 自然	コンタクトレンズの基礎	後期	1			
	教養 自然	新薬発見のケーススタディー	前期	1			
	教養 自然	夢の薬物送達システム (DDS)	後期	1			
	教養 自然	◆ 安全と危機管理学	前・後	2			
	教養 自然	◆ 科学とはなんだろう	前・後	2			
	教養 自然	◆ 薬の現在・過去・未来	前・後	2			
	教養 自然	非開講 グラフィック基礎	後期	2			
	教養 自然	生命と物質のサイエンス	後期	2			
	教養 自然	リメディアル化学	前期	2			
	教養 自然	リメディアル物理学	前期	2			
	教養 自然	リメディアル生物学	前期	2			
	教養 自然	細胞生物学入門	前期	2			
	教養 文理	◆ イノベーションをはじめよう	前・後	2			
教養 文理	SDGs概論	後期	2				
教養 文理	◆ 価値デザイン入門	前・後	2				
キャリア -	医療界のワーク・ライフ学	前期	1				
キャリア -	チーム医療論	前期	1				
キャリア -	世界に羽ばたく医療人	前・後	2				
情報 -	医療数理科学入門	前期	2				
情報 -	医療統計学	前期	2				
情報 -	◇ データサイエンス・AI入門	前・後	2				
外国語 -	アカデミック・イングリッシュ	前期	2				
外国語 -	イングリッシュ・コミュニケーション	前・後	2				
外国語 -	TOEIC対策英語	前・後	2				
外国語 -	◆ 中国語入門	前・後	1				
外国語 -	◆ コリア語入門	前・後	1				
専門基礎分野		人体の構造と機能	前期	2	1科目2単位必修		
専門分野	初年次 -	ライフデザイン演習Ⅰ	通年	1	4科目7単位必修		
		生理検査学Ⅰ	後期	2			
		微生物検査学総論	後期	2			
		検査機器学	前期	2			
第1学年履修単位数合計					32単位		

◆オンライン ◇オンライン (一部対面)

臨床検査

授業科目履修一覧表 (2025年度入学生)

第2学年

分野		共通教育 科目区分		授業科目名	開講期	単位数	履修方法
共通 教育 科目	基礎 分野	外国語	-	医学英語	前期	1	1科目1単位 必修
専 門 基 礎 分 野				生理学実習	後期	1	6科目11単位 必修
				病理検査学 I	前期	2	
				病理検査学実習 I	通年	1	
				病理学	通年	4	
				生化学	前期	2	
				生化学実習	後期	1	
専 門 分 野	キャリア	-		ライフデザイン演習 II	通年	1	12科目19単位 必修
				解剖・病理学実習	後期	1	
				臨床検査総論 (実習含む)	前期	2	
				血液検査学 I	後期	2	
				生化学検査学 I	後期	2	
				微生物検査学 I	前期	2	
				微生物学実習	通年	1	
				免疫検査学	前期	2	
				免疫検査学実習	後期	1	
				輸血・移植免疫検査学 I	後期	2	
				生理検査学 II	前期	2	
				薬理学	後期	1	
第2学年履修単位数合計							31単位

授業科目履修一覧表 (2025年度入学生)

第3学年

分野	共通教育科目区分		授業科目名	開講期	単位数	履修方法
	共通教育科目	基礎分野				
	教養	人文	小論文概論	後期	1	1科目1単位 自由選択
専門基礎分野			公衆衛生学	前期	2	5科目7単位 必修
			医用工学概論	前期	2	
			医用工学概論実習	後期	1	
			認知症検査学	後期	1	
			臨床栄養学	前期	1	
専門分野	キャリア	-	ライフデザイン演習Ⅲ	通年	1	20科目35単位 必修
			臨床病態学	後期	2	
			寄生虫検査学 (実習含む)	前期	2	
			血液検査学Ⅱ	前期	2	
			血液検査学実習	前期	1	
			病理検査学Ⅱ	前期	2	
			病理検査学実習Ⅱ	通年	1	
			遺伝子・染色体検査学 (実習含む)	後期	2	
			生化学検査学Ⅱ	後期	2	
			生化学検査学実習	前期	1	
			輸血・移植免疫検査学Ⅱ	前期	1	
			輸血・移植免疫検査学実習	前期	1	
			生理検査学Ⅲ	前期	2	
			生理検査学Ⅳ	後期	1	
			生理検査学実習	通年	2	
			臨床検査総合管理学	通年	4	
			関係法規・保健医療福祉概論	後期	1	
			臨床検査特論Ⅰ	後期	2	
			微生物検査学Ⅱ	前期	2	
			微生物検査学実習	後期	1	
		医療安全管理学 (実習含む)	通年	2		
		健康食品学	前期	1	1科目1単位 自由選択	
第3学年履修単位数合計						42単位

臨床検査

第4学年

分野	共通教育 科目区分		授業科目名	開講期	単位数	履修方法
専門分野	キャリア	-	ライフデザイン演習Ⅳ	通年	1	4科目20単位 必修
			病態解析演習	後期	1	
			臨地実習	通年	12	
			臨床検査特論Ⅱ	通年	6	
			細胞検査士特論	通年	4	2科目8単位 自由選択
			特別研究	通年	4	
第4学年履修単位数合計						20単位

卒業に必要な修得単位数	125単位
-------------	-------

進級および卒業について（2025 年度入学生）

進 級

1. 進級の判定は、学年末に開かれる会議において行われる。
2. 2 学年への進級要件は、1 年次の基礎分野の必修科目 19 単位および選択科目 4 単位以上、専門基礎分野の必修科目 2 単位、専門分野の必修科目 7 単位、合計 32 単位以上を修得していること。
3. 3 学年への進級要件は、2 年次の基礎分野の必修科目 1 単位、専門基礎分野の必修科目 11 単位、専門分野の必修科目 19 単位、合計 31 単位（1 年次、2 年次合計 63 単位以上）を修得していること。
4. 4 学年への進級要件は、3 年次の専門基礎分野の必修科目 7 単位、専門分野の必修科目 35 単位、合計 42 単位（1 年次、2 年次、3 年次合計 105 単位以上）を修得していること。

卒 業

1. 4 年以上在学し、卒業に必要な単位を修得することにより、学年末に開かれる教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学士(医療技術学)の学位が授与される。
2. 卒業要件は、基礎分野の必修科目 20 単位および選択科目 4 単位以上、合計 24 単位以上、専門基礎分野の必修科目 20 単位、専門分野の必修科目 81 単位、総合計 125 単位以上を修得していること。

臨地実習の履修条件

基礎分野、専門基礎分野、専門分野の 3 年次までに開講されるすべての必修科目および規定数以上の選択科目、合計 105 単位以上を修得または修得見込みであること。

スポーツ医療学科 救急救命士コース履修要項 〔2025年度入学生〕

修得目標・カリキュラムマップ	救 2
主な学修内容	救 4
授業科目履修一覧表	救 6
進級および卒業について	救 9
臨床実習の履修条件	救 9
救急救命士国家試験受験資格について	救 10
コース変更について	救 10

修得目標 スポーツ医療学科救急救命士コース【2025年度入学生】

学科の修得目標		全学の修得目標	4要素
レベル1	レベル2		
A 救急救命士に求められる倫理に関する基礎的知識を有している	1 生命倫理の4つの原則を理解し、病院前救護の現場活動をそれらの原則に当てはめて説明できる		知識・理解
	2 救急救命士の職業倫理を説明できる		知識・理解
	3 リビングウイル（生前意思）とアドバンスディレクティブ（事前意思）を理解し、心肺蘇生を中止する場合の標準的対応について説明できる		知識・理解
	4 人文科学、社会科学、自然科学に関する幅広い知識を理解した上で専門知識の学びを進めることができる	人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識を有する	知識・理解
	5 言語、文化、宗教、法的制度の異なる人々について理解し、救急活動中に注意すべき点を説明できる	多文化・異文化に関する知識をもって物事を判断することができる	知識・理解
B 救急救命士として地域社会に貢献する意欲を有している	6 消防、保健医療制度、社会保障、社会福祉の仕組みと現状を理解し、病院前救護に関わる問題点を議論できる		汎用的技能
	7 医療従事者の資格や身分を定めた救急救命士法、その他医療従事者に関する法令を理解し、救急救命士が行う現場活動について説明できる		知識・理解
	8 習得した病院前救護の知識と技術を用いて、防災訓練指導や救護ボランティアを通じて地域社会に貢献できる		態度・志向性
	9 自分が理想とする救急救命士像に必要なスキルを検討し、それらを獲得するための学修プランを自ら計画し、実行できる	自律・自立して学修できる	態度・志向性
	10 救急救命士の資格を活かせる職業を理解し、自分の希望する進路先を決定することができる		態度・志向性
C 病院前救護活動で考慮すべき安全管理の知識や技術を有している	11 病院前救護活動中に必要な安全管理を理解し、実習で実践できる		態度・志向性
	12 病院前救護の現場におけるインシデントとアクシデントについて理解し、症例検討を通じて重大な事故の予防、事故への対応原因の究明、再発防止について議論できる		汎用的技能
	13 病院前救護におけるメディカルコントロールについて理解し、救急救命士の役割やプロトコルについて説明できる		知識・理解
	14 病院前救護の現場における感染予防策と感染防御を理解し、実習で実践できる		汎用的技能
D 病院前救護に必要なチームとしての協調性とリーダーシップを有している	15 病院前救護で求められる言語的・準言語的・非言語的コミュニケーションについて説明できる		知識・理解
	16 傷病者の特性に応じたコミュニケーションを理解し、実習で実践できる		態度・志向性
	17 心理的安全性について理解し、共通の目的を達成できるような学習環境を構築できる		態度・志向性
	18 病院前救護におけるリーダーシップについて理解し、シミュレーション訓練でリーダーとして活動方針を示し、メンバーの行動を誘導できる		態度・志向性
	19 チーム医療における救急救命士および他職種の役割を理解し、傷病者のための連携のあり方について説明できる	協働作業によって新たなものを構築することができる	態度・志向性
E 病院前救護に関わる基本的な知識・技術を修得し、その専門性を探究し続ける能力を有している	20 人体のしくみとはたらきについて説明できる		知識・理解
	21 病院前救護の現場で遭遇する代表的な内因性疾患および外因性傷病について説明できる		知識・理解
	22 内因性疾患および外因性傷病、集団災害に対する現場活動において、現場の評価、傷病者の病態把握のプロセスで得られた情報を収集・分析して、臨床推論を展開できる	多様な情報を収集・分析して適正に判断し、効果的に活用できる	汎用的技能
	23 実習で経験した臨床現場の症例を学内で発表し、議論できる	口頭・書面によるコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を有する	汎用的技能
	24 実習での経験と授業で学んだこととの相違点を発見し、その理由を調査・分析して説明できる	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することで解決できる	汎用的技能
25 病院前救護で行われる根拠に基づく医療（EBM）について理解し、実習で経験した症例を基に、課題を発見し研究できる	獲得した資質・能力を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用することで解決することができる	統合的な学習経験と創造的思考力	

主な学修内容（2025年度入学生）

1) 1学年

1年次は救急救命士の倫理観と幅広い見識を養うことを目的に学修を進める。医療従事者に求められる倫理観は基礎分野の「生命科学」や「医療社会学」を中心に学ぶ。人間関係構築に必要なコミュニケーションスキルや協調性、リーダーシップ、チーム医療の概念は基礎分野の「ヒューマンコミュニケーション」で学ぶ。内因性疾患や外因性傷病の症候や病態を理解するためには、人体のしくみとはたらきの理解が不可欠である。そのため、専門基礎分野の「解剖学」「生理学」「生化学」「救急医学概論Ⅰ・Ⅱ」「病院前救護Ⅰ・Ⅱ」および専門分野の「救急救命処置各論Ⅰ」「内科系医学Ⅰ」を学ぶ。前期から始まる「臨床実習Ⅰ」では、礼式やチーム活動を通じて規律の重要性や和衷協同の精神を学ぶとともに、救急活動に必要なスキルの基礎を主に学ぶ。また、「ライフデザイン演習Ⅰ」を通じて、自身の将来像を描き就職へ繋がる行動力を醸成する。

2) 2学年

2年次は1年次に引き続き、人体のしくみとはたらきを理解するために、専門基礎分野の「薬理学」「病理学」「微生物学」を学ぶ。また、病院前救護の現場で遭遇する内因性疾患、外因性傷病については、専門分野の「内科系医学Ⅱ」「救急症候学Ⅰ・Ⅱ」「救急病態生理学」「外傷救急医学」「救急脳神経病態学」「救急救命処置各論Ⅱ・Ⅲ」などの科目で学ぶ。さらに「臨床実習Ⅱ・Ⅲ」におけるシミュレーショントレーニングを通じて、これらの知識の実践的理解を深める。基礎分野の「ライフデザイン演習Ⅱ」では、自身の将来像を描き具体的なライフデザインを検討する。消防職員をはじめとした“公務員”を目指す学生は「公務員教養Ⅰ・Ⅱ」を履修し、公務員試験の教養試験と小論文試験に対応できる力を醸成する。

3) 3学年

3年次は、2年次で修得した専門分野の学習を統合・発展させると同時に、将来のライフデザインを具体化する重要な時期である。「環境障害・急性中毒学」「小児科学」「産婦人科学」「整形外科学」「精神医学」「救急救命処置各論Ⅳ」などの専門分野を学ぶ。「臨床実習Ⅳ」では、緊急度・重症度が高い傷病者、心肺停止傷病者に対する救急救命処置（特定行為）をチームで実施するスキルを習得することを目的とし、シミュレーショントレーニングを主に行う。さらに、通年で実施する「臨床実習Ⅵ」（救急車同乗実習）と「臨床実習Ⅶ」（病院実習）を通じて、実際の救急医療の現場を経験する。この実習では、救急救命士に必要な医学的知識・技術のみならず、生命倫理、接遇、チーム医療、安全管理の意義を深く理解することを目的とする。また、最終学年を控え、卒業後の進路を明確にするために「ライフデザイン演習Ⅲ」を配置する。

4) 4 学年

4 年次は 3 年次までに履修した科目の総仕上げの時期であり、救急救命士としての知識・技術・思考・チームワークをさらに磨き、救急救命士国家試験の合格を目指す。同時に、公務員採用試験や就職活動と重なる時期であるため、自身の描くライフデザインに基づき、主体的に行動することが求められる。「救急救命処置各論 V」「臨床実習 V」では、3 年次までに学修した内容に加え、特殊疾患（産婦人科、小児・高齢者、中毒、感染症など）に対する現場活動を修得する。また、シミュレーショントレーニングで使用する教材（シナリオ等）を学生自身で作成することで、内因性疾患、外因性傷病、集団災害に対する理解を深めると同時に、シミュレーショントレーニングの設計を経験する。「救急救命特論 I・II」では、国家試験対策として一般問題・状況設定問題を題材に、学修状況を分析し、議論を通じて弱点を克服する。これにより、救急救命士として社会に貢献するための基盤を形成する。

授業科目履修一覧表 (2025年度入学生)

分野	共通教育科目区分		授業科目名	開講期	配当学年・単位数				履修方法
					1年	2年	3年	4年	
共通教育科目	教養	社会	医療社会学	前期	2				18単位必修
	教養	自然	生命科学	前期	2				
	初年次	-	ヒューマンコミュニケーション	通年	2				
	初年次	-	ライフデザイン演習Ⅰ	通年	2				
	キャリア	-	ライフデザイン演習Ⅱ	通年		2			
	キャリア	-	ライフデザイン演習Ⅲ	通年			2		
	キャリア	-	ライフデザイン演習Ⅳ	通年				2	
	情報	-	情報科学	通年	2				
	外国語	-	英語	通年	2				
	教養	人文	医療心理学	前期	2				
	教養	人文	◆ 心ころがるサイコロジ－	前・後	2				
	教養	人文	ヘルスケアエデュケーション	前期	2				
	教養	人文	臨床心理学	後期	2				
	教養	人文	◆ 日本史の転換点を見極める	前・後	2				
	教養	社会	医療経済学	前・後	2				
	教養	社会	医療とボランティア	前期	2				
	教養	社会	基礎医療法学	前期	2				
	教養	社会	◆ 国際理解の扉を開く (ポストコロナル太平洋の探究)	前・後	2				
	教養	社会	災害からの復活と公衆衛生	後期	2				
	教養	社会	社会と医療	前・後	2				
	教養	社会	多文化社会論	前・後	2				
	教養	社会	地域健康管理学入門	前期	2				
	教養	社会	日本国憲法	前・後	2				
	教養	社会	ヘルス・コミュニケーション	前・後	2				
	教養	社会	◆ 罪と罰を科学する	前・後	2				
	教養	自然	健康スポーツ	前・後	1				
	教養	自然	コンタクトレンズの基礎	後期	1				
	教養	自然	新薬発見のケーススタディー	前期	1				
	教養	自然	夢の薬物送達システム (DDS)	後期	1				
	教養	自然	◆ 安全と危機管理学	前・後	2				
	教養	自然	◆ 科学とはなんだろう	前・後	2				
	教養	自然	◆ 薬の現在・過去・未来	前・後	2				
	教養	自然	非開講 グラフィック基礎	後期	2				
	教養	自然	生命と物質のサイエンス	後期	2				
	教養	自然	リメディアル化学	前期	2				
	教養	自然	リメディアル物理学	前期	2				
	教養	自然	リメディアル生物学	前期	2				
	教養	自然	細胞生物学入門	前期	2				
	教養	文理	◆ イノベーションをはじめよう	前・後	2				
	教養	文理	SDGs概論	後期	2				
	教養	文理	◆ 価値デザイン入門	前・後	2				
	キャリア	-	医療界のワーク・ライフ学	前期	1				
キャリア	-	チーム医療論	前期	1					
キャリア	-	世界に羽ばたく医療人	前・後	2					
情報	-	医療数理科学入門	前期	2					
情報	-	医療統計学	前期	2					
情報	-	◇ データサイエンス・AI入門	前・後	2					
外国語	-	アカデミック・イングリッシュ	前期	2					
外国語	-	イングリッシュ・コミュニケーション	前・後	2					
外国語	-	TOEIC対策英語	前・後	2					
外国語	-	◆ 中国語入門	前・後	1					
外国語	-	◆ コリア語入門	前・後	1					
キャリア	-	公務員教養Ⅰ	前期		2				
キャリア	-	公務員教養Ⅱ	後期		2				
外国語	-	※ 国際事情Ⅰ							
外国語	-	※ 国際事情Ⅱ							

◆オンライン ◇オンライン (一部対面)
 ※国際事情Ⅰ・国際事情Ⅱについて
 春期休暇や夏期休暇に実施する2週間～3週間のホリデー留学に参加し、所定の成績を修めた者には、単位が付与されます。留学についてはその都度、掲示などでお知らせします。2週間の場合は2単位、3週間以上の場合は4単位が認定されます。(国際事情Ⅰ 2単位、国際事情Ⅱ 2単位)

授業科目履修一覧表 (2025年度入学生)

分野	共通教育 科目区分	授業科目名	開講期	配当学年・単位数				履修方法
				1年	2年	3年	4年	
専門基礎分野		解剖学	前期	2				22単位 必修
		生理学	前期	2				
		衛生学・公衆衛生学	後期		2			
		薬理学	後期		2			
		病理学	前期		2			
		生化学	後期	2				
		微生物学	前期		2			
		救急医学概論Ⅰ	前期	2				
		救急医学概論Ⅱ	後期	2				
		病院前救護Ⅰ	前期	2				
	病院前救護Ⅱ	後期	2					
専門分野		内科系医学Ⅰ	後期	2				68単位以上 選択
		内科系医学Ⅱ	後期		2			
		救急症候学Ⅰ	前期		2			
		救急症候学Ⅱ	後期		2			
		救急病態生理学	前期		2			
		環境障害・急性中毒学	前期			2		
		外科系医学	後期		1			
		外傷救急医学	前期		2			
		小児科学	前期			1		
		産婦人科学	後期			1		
		整形外科学	後期			1		
		救急脳神経病態学	後期		2			
		精神医学	前期			1		
		放射線医学	後期			1		
		救急救命処置各論Ⅰ	通年	2				
		救急救命処置各論Ⅱ	前期		2			
		救急救命処置各論Ⅲ	後期		2			
		救急救命処置各論Ⅳ	通年			2		
		救急救命処置各論Ⅴ	通年				2	
		救急救命特論Ⅰ	前期				4	
		救急救命特論Ⅱ	後期				4	
		臨床実習Ⅰ(シミュレーション)	通年	4				
		臨床実習Ⅱ(シミュレーション)	前期		4			
		臨床実習Ⅲ(シミュレーション)	後期		4			
		臨床実習Ⅳ(シミュレーション)	通年			4		
		臨床実習Ⅴ(シミュレーション)	通年				4	
	臨床実習Ⅵ(救急車同乗実習)	3前～4前				3		
	臨床実習Ⅶ(病院実習)	3前～4前				5		

授業科目履修一覧表 (2025年度入学生)

分野	授業科目名	配当学年・単位数				履修方法	
		1年	2年	3年	4年		
専門分野(選択) 【八王子キャンパス開講】	臨床スポーツ医学Ⅰ		2			68単位以上 選択	
	臨床スポーツ医学Ⅱ		2				
	スポーツ外傷・障害の予防Ⅰ	2					
	スポーツ外傷・障害の予防Ⅱ		2				
	スポーツ外傷・障害の予防Ⅲ		2				
	検査・測定と評価		2				
	アスレティックトレーナー概論	2					
	コンディショニングⅠ	2					
	コンディショニングⅡ		2				
	コンディショニングⅢ		2				
	リコンディショニングⅠ	2					
	リコンディショニングⅡ		2				
	リコンディショニングⅢ		2				
	AT実践演習Ⅰ			2			
	AT実践演習Ⅱ			2			
	AT現場実習事前授業	2					
	AT現場実習授業Ⅰ		2				
	AT現場実習授業Ⅱ		2				
	ATシミュレーション演習Ⅰ			2			
	ATシミュレーション演習Ⅱ			2			
	AT特講Ⅰ			2			
	AT特講Ⅱ			2			
	AT特講Ⅲ			2			
	AT特講Ⅳ			2			
	AT特講Ⅴ				2		
	AT特講Ⅵ				2		
	スポーツ栄養学			2			
	AT現場実習Ⅰ	1					
	AT現場実習Ⅱ		1				
	AT現場実習Ⅲ		1				
	AT現場実習Ⅳ		1				
	AT現場実習Ⅴ		1				
	ジョギング・ウォーキング	2					
	スポーツクラブ運営論Ⅰ			2			
	スポーツクラブ運営論Ⅱ			2			
	トレーニング実習			1			
	健康と心理Ⅰ		2				
	健康と心理Ⅱ		2				
	体育原理	2					
	体育経営管理学	2					
スポーツ人類学		2					
スポーツ情報論Ⅰ	2						
スポーツ情報論Ⅱ	2						
スポーツ倫理学		2					
スポーツ史		2					
スポーツ運動学(運動方法学を含む)	2						
精神保健	2						
学校保健(学校安全等を含む)	2						
スポーツ方法実習(陸上競技)Ⅰ		1					
スポーツ方法実習(陸上競技)Ⅱ		1					
スポーツ方法実習(水泳)Ⅰ		1					
スポーツ方法実習(水泳)Ⅱ		1					
スポーツ方法実習(柔道)Ⅰ		1					
スポーツ方法実習(柔道)Ⅱ		1					
スポーツ方法実習(剣道)Ⅰ		1					
スポーツ方法実習(剣道)Ⅱ		1					
スポーツ方法実習(ラグビー)		1					
スポーツ方法実習(バスケットボール)		1					
スポーツ方法実習(体操)Ⅰ		1					
スポーツ方法実習(体操)Ⅱ		1					
スポーツ方法実習(ハレーボール)		1					
スポーツ方法実習(レクリエーション)		1					
スポーツ方法実習(ダンス)		1					
スポーツ方法実習(野外活動)		1					

分野	授業科目名	配当学年・単位数				履修方法	
		1年	2年	3年	4年		
専門分野(選択) 【八王子キャンパス開講】	授業指導法(陸上競技)			2		68単位以上 選択	
	授業指導法(体操)			2			
	授業指導法(水泳)			2			
	授業指導法(柔道)			2			
	授業指導法(剣道)			2			
	授業指導法(球技系)			2			
	小児保健			2			
	予防医学		2				
	養護概説	2					
	健康教育Ⅰ	2					
	健康教育Ⅱ	2					
	免疫学		2				
	薬理概論			2			
	看護学Ⅰ	2					
	看護学Ⅱ		2				
	看護学Ⅲ		2				
	看護実習Ⅰ		1				
	看護実習Ⅱ			1			
	栄養学(食品学を含む)	2					
	スポーツ体力学		2				
	運動処方	2					
	運動処方Ⅱ			2			
	運動処方演習				1		
	フィットネス概論	2					
	エアロビックスエクササイズ概論	2					
	エアロビックスエクササイズ実習Ⅰ		1				
	エアロビックスエクササイズ実習Ⅱ		1				
	レクリエーション指導(理論)		2				
	レクリエーション指導演習		2				
	障害者スポーツ論			2			
	環境衛生工学		2				
	産業労働心理学		2				
	労働関係法令Ⅰ			2			
	労働関係法令Ⅱ			2			
	憲法特講Ⅰ		2				
	憲法特講Ⅱ		2				
	基礎法学Ⅰ		2				
	基礎法学Ⅱ		2				
	民法Ⅰ		2				
	民法Ⅱ		2				
行政法Ⅰ		2					
行政法Ⅱ		2					
労働法Ⅰ		2					
労働法Ⅱ		2					
経済法Ⅰ			2				
経済法Ⅱ			2				
現代法の諸問題Ⅰ			2				
現代法の諸問題Ⅱ			2				
スポーツ産業論Ⅰ	2						
スポーツ産業論Ⅱ	2						
アメリカ型スポーツ経営Ⅰ		2					
アメリカ型スポーツ経営Ⅱ		2					
ヨーロッパ型スポーツ経営Ⅰ		2					
ヨーロッパ型スポーツ経営Ⅱ		2					

実習科目については、定員等の関係で履修できないものもあります。

進級および卒業について（2025 年度入学生）

進 級

1. 進級の判定は、学年末に開かれる会議において行われる。
 2. 2 学年への進級要件は、基礎分野の必修科目 12 単位、専門基礎分野の必修科目 14 単位を修得していること。
- ※2 年生への進級が不合格となった場合、専門基礎分野の必修科目に関しては、合格した科目であっても次年度に再聴講をしなければならない。成績については再評価をする。
3. 3 学年への進級要件は、基礎分野の必修科目 14 単位、専門基礎分野の必修科目 22 単位を修得していること。
 4. 4 学年への進級要件は、基礎分野の必修科目 16 単位、専門基礎分野の必修科目 22 単位を修得していること。

卒 業

1. 4 年以上在学し、卒業に必要な単位を修得することにより、学年末に開かれる教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学士(スポーツ医療学)の学位が授与される。
2. 卒業要件は、基礎分野の必修科目 18 単位および選択科目 16 単位以上、専門基礎分野の必修科目 22 単位、専門分野の選択科目 68 単位以上、総合計 124 単位以上を修得していること。

臨床実習の履修条件

1. 「臨床実習Ⅳ」、「臨床実習Ⅵ」、「臨床実習Ⅶ」を履修するためには、2 年次後期までに配当されている救急救命士国家試験受験資格の科目をすべて修得していること。
2. 「臨床実習Ⅰ～Ⅴ」を履修するためには、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴの順に単位を履修し修得する必要がある（例えば、臨床実習Ⅱを履修するためには臨床実習Ⅰの単位を修得していることが条件となる）。

救急救命士国家試験受験資格について

救急救命士国家試験受験資格を取得するためには、下表の科目をすべて修得する必要がある。

科目名	単位数	科目名	単位数
衛生学・公衆衛生学	2	救急医学概論Ⅰ	2
解剖学	2	救急医学概論Ⅱ	2
生理学	2	病院前救護Ⅰ	2
薬理学	2	病院前救護Ⅱ	2
環境障害・急性中毒学	2	救急救命処置各論Ⅰ	2
病理学	2	救急救命処置各論Ⅱ	2
生化学	2	救急救命処置各論Ⅲ	2
微生物学	2	救急救命処置各論Ⅳ	2
内科系医学Ⅰ	2	救急救命処置各論Ⅴ	2
内科系医学Ⅱ	2	救急救命特論Ⅰ	4
救急症候学Ⅰ	2	救急救命特論Ⅱ	4
救急症候学Ⅱ	2	臨床実習Ⅰ(シミュレーション)	4
救急病態生理学	2	臨床実習Ⅱ(シミュレーション)	4
外科系医学	1	臨床実習Ⅲ(シミュレーション)	4
外傷救急医学	2	臨床実習Ⅳ(シミュレーション)	4
小児科学	1	臨床実習Ⅴ(シミュレーション)	4
産婦人科学	1	臨床実習Ⅵ(救急車同乗実習)	3
整形外科	1	臨床実習Ⅶ(病院実習)	5
救急脳神経病態学	2		
精神医学	1		
放射線医学	1		

コースの変更について

救急救命士コースにおいて、進路変更等の理由により健康スポーツコースへの変更を志願した場合、教授会の議を経て、学長が許可することがある。

1. コース変更の対象者は、救急救命士コースの学生のみとし、変更時期は各学年の始めとする。
2. コース変更を志願する者は、前年度3月初旬の指定された期日までに必要書類を提出し、3月末日までに所定の手続きを行わなければならない。
3. コース変更が許可された場合、既に修得した専門基礎分野及び専門分野の単位は、原則として健康スポーツコースの専門分野（選択）の単位として認定される。